我が校のものがたり

―かけがわ学力向上ものがたり（別冊）―

掛川市教育委員会では、「学力」とは何かを学校・家庭・地域で共通理解し、どのようにしたら学力の向上が図れるか、その理念や方法等を「ものがたり」としてまとめた「かけがわ学力向上ものがたり」を平成26年３月に策定し、以後、毎年度改訂を重ねています。

また、新学習指導要領完全実施と１人１台端末導入に合わせて策定した「かけがわ型ＧＩＧＡスクール構想」に基づき、これまでの授業改善の取組を大切にしながら、21世紀を生き抜く子どもたちが「かけがわ型スキル」を身に付け、確かな学力を向上させていくために、ICTを活用した「新たな学びのスタンダード」を実践し、授業改革に取り組んでいるところです。

各校においては、こうした方針を土台にしながら、児童生徒の学習状況や地域の特色を生かした独自の学力向上の方策を考え「我が校のものがたり」としてまとめました。これを基盤とした共通理解のもと、全教職員が組織的に協働し、実践と検証を積み重ねることで自校の課題解決を図っていきます。

さらに、学びを学校に閉じることなく、家庭や地域の力を生かし、学びの主体者である一人一人の子どもの生きる力を育む教育活動の充実に努めてまいります。

令和３年６月
掛川市教育委員会

目　次

頁

【小学校】

1　日坂小学校……2
2　東山口小学校……4
3　西山口小学校……6
4　上内田小学校……8
5　城北小学校……10
6　第一小学校……12
7　第二小学校……14
8　中央小学校……16
9　曽我小学校……18
10　桜木小学校……20
11　和田岡小学校……22
12　原谷小学校……24
13　原田小学校……26
14　西郷小学校……28
15　倉真小学校……30
16　土方小学校……32
17　佐束小学校……34
18　中小学校……36
19　大坂小学校……38
20　千浜小学校……40
21　横須賀小学校……42
22　大渕小学校……44

【中学校】

23　栄川中学校……48
24　東中学校……50
25　西中学校……52
26　桜が丘中学校……54
27　原野谷中学校……56
28　北中学校……58
29　城東中学校……60
30　大浜中学校……62
31　大須賀中学校……64

小学校

掛川市立日坂小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○単元を見通した課題を設定したことで、子供たちが自ら考えたくなるような思考に沿った課題作りができ、子供たちの主体的な取り組みにつながった。

○交流を通して、積極的に考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしようとする姿が見られた。更に「伝わるって楽しいな」を活用することで友達の考えとつなげて話そうとする意識も高まってきた。

▲交流が考えを伝え合うだけの活動となっている。積極的に考えを伝えようとしているが、素直に友達の考えを聞き入れてしまうことで、友達の考えに疑問を感じたり、自分の考えと比べて変容させたりしながら聞くことができていない。他の考えを批判的に捉える聞き方も必要である。

▲交流を通して考えの変容や深まりが弱く、学びを実感する振り返りにつながっていない。

研修テーマ

主体的に学び合い、自分の考えを深める授業

研修の取組

「解決していく対話」の設定

教師の求める答えを見つける場、単に答えを確認し合う場

各教科の見方・考え方を働かせる

対話の質の向上

自他の考えを関連付けたり、統合させたりしながら思考を深める場

・対話が自分の考えを伝えるだけの場ではなく、「どうしてそうなるのか。」と自分とは異なる考えと向き合い、考えを変容させたり、深めたりさせていく。
（①思考力　②問題解決力　③意思決定力　④コミュニケーション力）

・iPad を活用した対話場面の設定（⑤情報の選択・活用力）

・対話グループの編成方法

特色ある学力向上への取組

基礎学力の向上

・ぐんぐんタイム(朝活動学習)
毎週３日間の朝活動で iPad、プリント等を使って基礎学力の定着を図る。

・ぐんぐんテスト
年間２回漢字、計算テストのまとめテストを実施し、基礎学力の定着を確認する。

・読書習慣
毎週１日のブックレンタルデーの設置や週末に読書の宿題を課す。

一人一台 iPad の活用

・校内研修で iPad の活用方法について話し合ったり、会議等の資料をデータ化したりすることで教職員が iPad の使い方に慣れる。

・各教室にプロジェクターを常設し、授業場面で活用しやすい環境を整備する。

社会を意識した自己表現活動の充実

・かがやき発表会
積み重ねてきた学習の成果を発表する。

・iPad を活用した情報発信

・地域とつながる総合的な学習
３年「お茶」　４年「福祉」
５年「地域防災」　６年「東海道の歴史」

栄川学園３校１園の連携
(12 年間を見通した学習指導)

・各校、園で年間１回の公開を行い、授業の協議や児童の実態について情報交換をする。

・学園共通の家庭学習の手引きを発行し、統一した指導を図る。

家庭学習の充実

・学年×10 分の学習時間を意識させ、音読カード等に学習時間を記入する。

・毎週金曜日の下校時刻を早めることで、帰宅してからすぐに学習する習慣付けを図る。

・e-ライブラリ「使い方ガイド」「児童ＩＤカード」を全児童に配り、自分に必要な学習に取り組む環境づくりを図る。

目指す姿

①自分の思いや考えをもち、分かりやすく表現する姿

②考えを比べながら聴き、学びを深める姿

掛川市立東山口小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

＜成果＞

・子どもの中に「既習の見方・考え方を使えばできそう。」という認識が広まった。

・どのような視点で教材研究や授業作りをすれば良いか、職員同士の理解が進んだ。

・教師が既習の見方や考え方などから授業をイメージし、単元を構想することができるようになってきたため、子どもの思考とのずれは徐々に小さくなってきた。

＜課題＞

・見方・考え方を意識して授業を行ってきたが、成果（願う子どもの姿）として表れていない。

・子どもに「学びに向かう姿勢」が十分に育っていない。そのため「表現」「解決」「統合」「発展」には行き着けていない。

研修テーマ

進んでかかわり　学び合う子

～教科の見方・考え方を働かせて学び合う授業づくり～

研修の取組

２つの研究の手立てをもとに、自身で決めた教科について研究を繰り返していくことで、テーマへと迫っていく。

（１）育成すべき資質・能力を明確にする。

・本単元で育成すべき資質・能力を明確にする。

・本単元につながる既習単元や見方・考え方をおさえる。

（２）資質・能力が育成される単元の指導計画を考える。

・資質・能力ベイスのゴールへと、ゴールイメージを変える。

・ゴールに向かうために、子どもが思わず見方・考え方を働かせたくなるような学習課題を設定する。

・ゴールに向かう子どもの思考を読み取る。

・それぞれの時間で、どの観点の評価を行うか見通す。

・ねらい達成に向け、効果的な方法を仕組む。

ex.　目的や意図をもった人との対話を取り入れる。

　　ＩＣＴを活用する。

特色ある学力向上への取組

学びつくり部と研修の連携

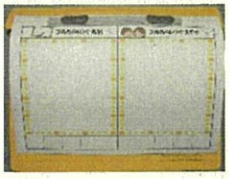
校内研修

学園との連携

授業づくり

・４月に、各クラスでめざす授業について話し合い、目標をたてる。学期の中間に振り返り、評価を行う。評価をもとに自分たちの授業を見直したり、次の学期の目標をたてたりする。また、クラスの目標を実現するための個人の目標を持たせ、一人一人が、自分みがきができるようにする。

・他の学年のよいところを取り入れ、自分たちの授業をよりよいものに高めていけるよう、学期に１回、他の学年の授業を見る機会（見せ合い授業）を設定する。



家庭学習の充実

家庭学習を通して、主体的に学ぶ態度やよりよい学習習慣を身につけさせる。また、家庭学習の仕方や意味について家庭と学校が共通認識を持てるよう、栄川学園共通の「家庭学習の手引き」を配付する。ｅライブラリの活用を進めたり、３年生以上は「自分みがきのかがやき学習」として「自主学習」に取り組ませ、自ら学びを求める子どもを育てていく。

一人一台の iPad 活用に向けて

・研修や日常の中で、どのように活用したか紹介しあうなど、職員同士で学び合う機会を設ける。

・検索ツールや発表ツールとして使うなど、簡単なことでも毎日少しずつ、iPad を使う機会を取り入れる。

地域との連携

コーディネーターの助力を得ながら、生活科や総合的な学習、クラブなどで、地域の方と関わったり、地域のことを学んだりすることで、地域についての理解を深め、「地域貢献」ができる力を育てる。

学園で進める研修

１園３校共通の研修テーマに加え、各園・校がサブテーマを設定し、そのテーマに向かって研修を進めていくことで、学園の目指す子どもの姿に近づけていく。年に３回合同授業研究会の機会を設け、学園の職員全体で研修に取り組み、12 年間を見通した教育を行う。

目指す姿

（１）課題に主体的に取り組み、分かりやすく表現する姿。**（自分で考える）**

（２）考えを比べながら聴き、仲間と協力して解決する姿。**（みんながわかる）**

（３）学びを統合、発展する姿。**（みんなで深める）**

掛川市立西山口小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

一昨年度から「考えをつなぐ授業」という研修テーマを継続している。研修の視点を子供たちが「問いをもつ」「考えを深める」「学びを実感する」の３つの場面とした。子供同士をつなぐための教師の構想や手立て、関わりについて研修を進めた。その結果、「みんなの前で自分の考えを伝える力」「子供同士で考えを深める力」「子供同士で授業を作ろうとする意識」が必要であることが明確になった。

研修テーマ

「考えをつなぐ授業」

研修の取組

学びを実感する

- 自分の言葉でまとめる時間の保障
- 学びを活用する練習問題

問いをもつ

- 自分ごととして考えることができる学習問題
- 具体的な子どもの姿をイメージ

つなぐ

かけがわ型スキル①②③④

聴く 訊く

話す

考えを深める

- 教師の出番、切り返しの検討
- 活動形態の工夫（ペア・小グループ）
- 提示する資料の精選、活動を支援するワークシート
- ICT の活用

学びを支える学級づくり

- 目指す授業像の設定
- 授業を見合う週間

特色ある学力向上への取組

外国語活動

西山口小の3goodを大切にしています

① Good Smile (笑顔)
② Good　Voice (大きな声)
③ Good　Reaction　（身ぶり・手ぶり）

「ふりかえりカード」を使用し、3つの項目ができたかどうか確認をし、子どもたちが意識して取り組めるようにしています。

Story time　の導入

絵本を購入し、読み聞かせを推進しています。

外国語教材を学年の単元ごとに揃えています。ALT・学年間の打ち合わせを大切にしています。

情報教育

- 各教科、道徳、特別活動等において、ICT 機器(ｉPad)を活用した授業を行います。
- 調べ学習の「テーマを決める→広く調べる→深く調べる→まとめる」の過程で、 コンピュータを活用していきます。
- 情報教育年間計画を活用し、基本技能の習得とプログラミング教育を通して ICT 機器を正しく使ったり、情報モラルについて考えたりする授業を行います。

読書指導

読書活動の充実

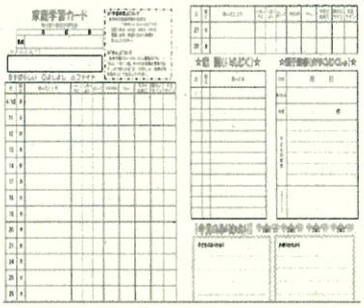
- 朝活動での読書
- 年間 100 冊を目標に、読書の記録をカードに記入
- 毎月家庭での親子読書

図書ボランティアの協力

- 朝活動での読み聞かせ
- 本の受け入れ、装備
- 掲示や図書の整理

家庭学習

家庭学習カードには、本読みカードの要素に加え「家読」「親子読書」、掛東学園で取り組んでいる「わんわんわん」の要素を取り入れ、子どもたちの学習・生活面の基礎基本の力を支えていきます。また全校児童にｅライブラリーのパスワードを配付しました。「今日の一問」や「先生からの連絡」などを利用し学校と家庭をつなぐツールとして活用しています。



目指す姿

「個」の変容

聴く・訊く

「それってどういうこと？」
「ここまでは分かるんだけど。」
「そういうことか。」「分かった！」

つなぐ

思考・学び

話す

「こうやってみたんだけど･･･。」「こういうことだよね。」「ここが似ているね。」「それってつまり～。」

「自分ごと」として学ぶ、自分語訳できる

掛川市立上内田小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○指示されたことや与えられた課題に対して真面目に一生懸命取り組むことができる。
○問題に対し、「やってみたい！」「なぜ？」という思いをもち、自ら学ぼうとする姿が見られた。
△コロナウイルス感染防止の観点から、自分の考えを直接伝え合う場面が限定されているため、みんなと学ぶ授業にどのように取り組んでいくかが課題である。
△「解決したい」という思いをもち、自ら・みんなと学び続ける姿。

研修テーマ

自ら学ぶ　みんなと学ぶ授業づくり

～考え、伝え、つなげよう～

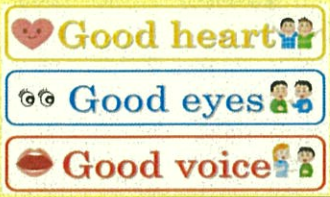
研修の取組

1　目指す授業像を設定
（1）「みんなとつながる」授業を創るために、「自ら」「みんなと」の２つを柱として、各クラスでめあてを話し合うことで、教師も児童も重点目標をより意識する。
切り口として、①ＩＣＴを活用した学習の工夫　②学習問題の工夫
2　具体的な手立て（窓口教科：算数）
（1）解決したい課題や問い（自ら学ぶための主な手立て）
学習の見通しをもたせる、導入を 5～10 分で行う（掛川市学力向上ものがたりより）
かけがわ型スキル「思考力、問題解決力、意思決定力」を高めていく。
（2）考えるための材料
ワークシートの工夫、板書の構造化、教具や教材の工夫
（3）対話と思考（みんなと学ぶ場の設定）※本年度の最重点
ICT、特に一人一台の iPad を活用した授業実践　目的意識の明確化
かけがわ型スキル「コミュニケーション力、情報の選択・活用力」を高めていく。
（4）学習の成果（学びつづける子を目指す）
学びを確かめる活動、新たな課題や問いの発見につながるまとめやふり返り
まとめの時間を 10 分以上確保、学力を定着させる（掛川市学力向上ものがたりより）

特色ある学力向上への取組

外国語活動、外国語の充実

・Ｅ－ＡＬＴとの打ち合わせの時間の確保、掛川スタンダードの活用
・振り返りの合言葉を全学年で統一、３つの観点を子どもと共有



家庭学習の充実（自ら学ぶ姿を推進）

・家庭学習の手引きを配付し、学習習慣づくりを行う。

・掛東学園による、毎月 15 日わんわんわん運動（ノーメディア）の実施

・自主学習で家庭でのｅライブラリー活用推進。

朝活動の作文タイム

・「条件に合った文を短時間で」を目標にして書くことに慣れる
〈１、２年生〉。
作文の基礎、書き方
〈３年生以上〉
朝日小学生新聞のコラム欄を活用
テーマに迫った感想や、要旨の読み取り
社会情勢への関心を高める。

サマースクールの実施（かけがわ型小中一貫カリキュラム）

・卒業生の掛東中生や教師による夏休み中の補習学習
・先輩に教わることで学習意欲向上

授業での、一人一台端末の活用

iPad を活用して、自ら調べたり、画面を共有してみんなと学ぶ授業を充実させていく。

目指す姿

・授業で自ら課題に取り組んでいる姿　９１％以上

・授業でみんなと課題に取り組んでいる姿　９１％以上

・授業で学習内容をしっかりと定着させて、次の課題に取り組もうと学びつづける姿

掛川市立城北小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○学習に対して、真面目に取り組む。
○課題に対して、自分の考えをもったり、書いたりできる。
○ペアやグループの形態での学習に慣れている。
▲友達の発言から自分の考えを深めようとしたりする力が弱い。
▲意見のはき出しが主になってしまい、学びの深まりに欠ける面が見られる。

研修テーマ

学びが深まる授業　～ＩＣＴの活用～

研修の取組

(1) 付けたい力・ねらいを明確にした授業『押さえる』、主体的・対話的に学び合う中で自己の考えを深める「学び合い」の実現『仕掛ける』、子どもが学びの深まりを実感できるふり返りの場の設定『確かめる』を意識し、授業を再構築する。

(2) 学びが深まった具体的な姿をとらえ、指導案に明記し、共通理解を図る。

(3) 学びを深めるための手立て（ＩＣＴの活用）を考え、指導案に明記する。

(4) 学習過程可視化法を用いて、子どもの具体的な姿から見取り、学びが深まったかを検証していく。

(5) じょうほく型スタンダードをもとに、必要な児童への合理的配慮がなされているかを確認し、ユニバーサルデザインを意識した授業づくりをする。

特色ある学力向上への取組

言語活動の充実

○金じろうタイム…書くことに慣れ、表現する力を付ける活動

○スピーチタイム…話すことに慣れ、わかりやすく伝えたり、表現したりする力をつける活動

家庭（地域）への発信と連携

○家庭への発信…各種たより・ｅじゃん掛川

○家庭学習、自分に合わせた自主学習の充実
…「家庭学習の手引き」

○学校生活の約束…「城北小学校生活の約束」

○ｅライブラリアドバンスの活用

○あいさつ活動の充実

○冀北学園「地域コーディネーター」との連携

道徳教育の充実

○「かけがわ道徳」の実践の充実
（「なるほどなっとく金次郎さん」「この人に学びたい－掛川の偉人ものがたり－」の活用）

○道徳コーナーの設置・ふり返り

○道徳だよりの発行

基礎的・基本的な知識・技能の習得

○基礎・基本の定着を丁寧に行う授業

○「学びの深まり」を意識した授業

○本校独自の「チャレンジテスト」による基礎・基本の定着

○ICT（タブレット）を活用した授業作り

○かけがわ型小中一貫カリキュラムの系統表を活用した年間計画の見直し

○児童の実態に合わせた Can-Do リストの作成

○プログラミング学習の充実

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学校づくり

○じょうほく型スタンダード
「授業づくり」「生活づくり」の推進

○特別支援教育の情報発信

（1）じょうほく型スタンダード

授業づくり

共有化	1	目指す授業像を共有させている。
	2	目指す授業像を具現化する方法をもたせている。
教師の話し方	3	一人一人の学びのよさを認め、肯定的な表現で話しかけている。
	4	指示などは聴覚的（言語）だけでなく、視覚的（板書など）に提示

生活づくり

共有化	1	だれもが居心地のよい学級にしようとする意識の共有化
	2	学級作りへの参画意識を高める
年	3	教室の整理・整頓を心掛け、不要な物を置いていない。
	4	黒板とその周りを、整理・整頓している。
	5	児童の机の中やロッカーの使い方を決めて、指導している。

目指す姿

学びが深まった姿を「既習事項と関連づけて考えている姿」「自分の思いや考えと根拠を結びつけている姿」「複数の考えから、より適切なものを判断している姿」「これまでに身につけたことを使って、新たなものを創造しようとする姿」などと捉え、目指す姿とする。

掛川市立第一小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

・児童全員が、意欲的に「掛一ジャンプ」に取り組むことができた。また、解決した達成感を得ることができた。
・既習事項をもとに新しい課題に取り組んだことで、課題に対する驚きや興味をもちながら深い読みをした。また、グループや全体でも進んで話し合う様子が多く見られた。
・グループやペアの学び合いから全ての子どもを把握し、評価することが難しかった。
・学び合いが班の話し合いになってしまい、個々の正確な理解度を図ることが難しかった。学び合いを終えた後のノートやワークシート等を問題解決の足跡として残したい。

研修テーマ

ともに学び合う
～１人１台端末を効果的に活用した学び合いの授業づくり～

研修の取組

魅力ある学習課題を設定し、１人１台端末を効果的に活用することができたか。

①夢中になって学び合う、魅力ある学習課題であったか。
・１人では解決できず、学び合いながら探究していけるような課題を提示することで、多様な考え方が出たり、粘り強く取り組んだりできたか検証する。

②考えを共有したり、深めたりする手立てとして、１人１台端末が効果的に活用されていたか。
・本時の目標や観点に適したＡ評価・Ｂ評価を具体的な子どもの姿で設定し、達成状況を検証する。

参観者は、上記の①②について評価を行い、有効な手立てや支援について研修を深めていく。

特色ある学力向上への取組

＜共通実践事項の設定＞

・教師は、児童をつなぐファシリテーターの役割を担う。
・「かけがわ型小中一貫カリキュラム」を活用し、学年のつながりを意識して指導案作成や授業を行う。
・１日１回以上、端末を活用する場面を設定する。
・「ｉＰａｄの日」の設定。

＜全体研修の充実＞

・紅林秀治先生を講師として招へいし、中心授業、公開授業に対してだけでなく、校内研修への助言をいただく。
・全員が年間２回以上、授業公開を行い、指導をいただいたり、お互いに見合ったりする。

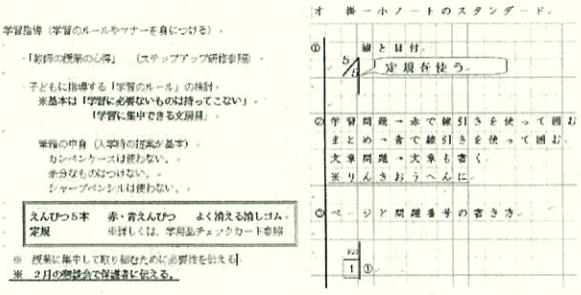
＜掛一小笑顔いっぱいの英語活動＞

・３つの Good
Good smile , Good voice , Good reaction
を推進し、振り返りカードを活用する。
・外国語専科の配置
専科教諭が全学年の年間計画を作成し、計画的に授業を進めることで統一した指導を行う。

＜目指す授業像を学年で設定＞

・「こんな授業をしたい」という子どもの主体的な学びの姿勢を醸成する。
・同じ学年の担任同士が、学級の実態や付けたい力を話し合い、統一感のある授業や指導を心掛ける。
・同学年や異学年の授業を児童も参観し、成果や課題、目標を明確にするとともに、参観される側にとっても成果を実感する機会としていく。

＜学びに必要な基礎基本の定着・徹底＞



・学習用具やノートのとり方等をどの学級においても統一し、指導をすることで、安心して学習に臨むための土台作りをする。

・１台端末を持ち帰り、家庭学習にも活用し、基礎学力の向上を図る。

目指す姿

自分で考え進んで行動

・誰一人取り残されず（ＳＤＧｓ）、全員参加ができる。
・仲間とともに課題解決することで、「わかった」「できた」を実感できる。
・１人１台端末を発達段階に応じて効果的に活用し、考えを共有したり、深めたりできる。

掛川市立第二小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

令和２年度 研修テーマ「対話を通して思考を深める児童の育成」の成果と課題

○ペア対話やグループ対話を意図的に授業に設定することで、一人では考えをもてなかった子どもが友達の考えをもとに自分の考えを生み出したり、自分の考えとは違う考えを理解したりするなど、思考の高まりが見られた。

○全体対話では、発表した友達の意見と自分の意見を比べながら聴き、自然に反応を返したり、友達の発表に繋げて発表したりするなど、生き生きと対話をする子どもの姿が見られた。

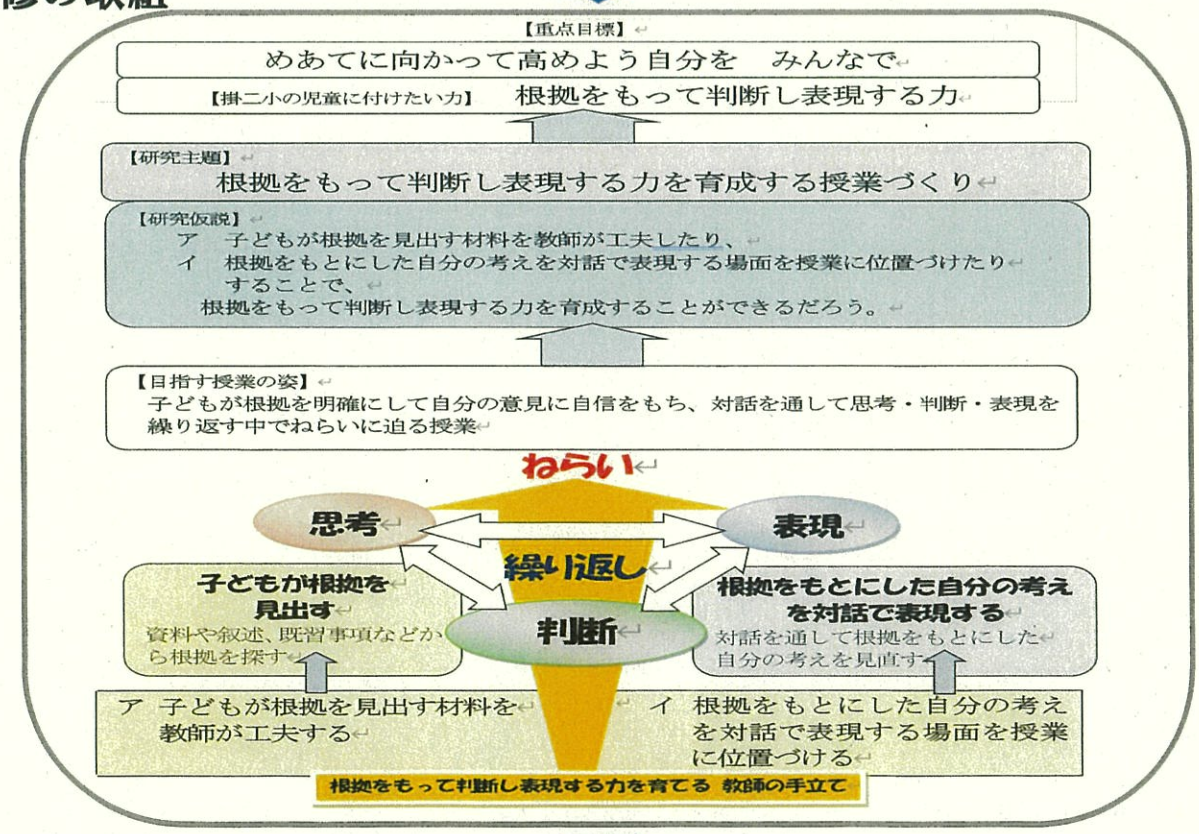
▲対話の内容は、既習事項や資料、叙述などの根拠に基づいた発言が不足している。

▲根拠が明確でないことが、自分の意見に自信をもって主張することの障壁となっている。

研修テーマ

根拠をもって判断し表現する力を育成する授業づくり

研修の取組



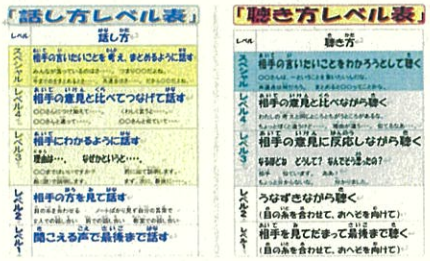
特色ある学力向上への取組

重点目標・掛二小の児童に付けたい力に向かうカリキュラムマネジメント研修

本校では昨年度より、教育センターの指導の下、カリキュラムマネジメント研修を行っている。「重点目標・掛二小の児童に付けたい力」に向かう授業づくりを研究し、資質・能力ベースへの授業観の転換を進めている。

掛二小の児童に付けたい力「根拠をもって判断し表現する力」を受け、今年度から研修テーマを「根拠をもって判断し表現する力を育成する授業づくり」と設定した。教科ごとの「根拠」を明確にし、その根拠を基に「思考・判断・表現」を繰り返す授業を目指している。教員一人一人が研究する教科を決め、各教科の教育センターの指導主事と授業研究を行う中で、各教科における根拠や根拠を基にした有効な手立てを追究する。

根拠を明確にし、根拠に注目するための「聴き方・話し方レベル表」の活用



授業の中で先生や友だちの考えを聴くこと、自分の考えを話すことは学力の定着、向上に必要なことである。そこで、本校では「聴き方・話し方レベル表」を活用し、授業における目指す姿を子どもたちと共有している。これは、掛西学園の研修共通テーマである「聞く・話す」の徹底にも繋がる取り組みである。

今年度からは【聴き方】と【話し方】の内容に、根拠を明確にする話し方や根拠に注目する聴き方を加えた。各学級で掲示することにより、より具体的な姿を子どもたちに明示している。授業で表れた良い姿を具体的に書き足したり認めたりしていくことで、根拠をもって判断し表現する力の育成につなげる。

一人一台の iPad を活用した授業づくり

本校では、一人一台の iPad を授業の中でどのように活用するかを研究の一部としている。校内研修の中で、活用法を探ったり実践を発表したりしている。実践例として、

- 体育科でのマット運動や跳び箱運動などの自分のフォームの確認
- 理科での雲の動きなどの事象を視覚的に比較する
- 総合的な学習の時間などでの調べ学習としてのツール　など…

が挙げられた。今後も研修を重ね、有効な実践を積み上げていきたい。

家庭学習の充実・家庭との連携

「家庭学習の目的とポイント」「家庭学習でステップアップ」を全児童へ配布し、家庭での学習習慣と学習内容の定着を図っている。３～６年生には、週末の家庭学習に自主学習を取り入れ、重点目標である「めあてに向かって高めよう自分を みんなで」を家庭学習にも位置づけている。

また、一人一台の iPad の活用を進めて e ライブラリの家庭での活用の推進を目指したり、読書活動の推進として「うちどく」(家での読書)や「読書推進週間」(親子読書・読書時間の確保)を設定したりしている。

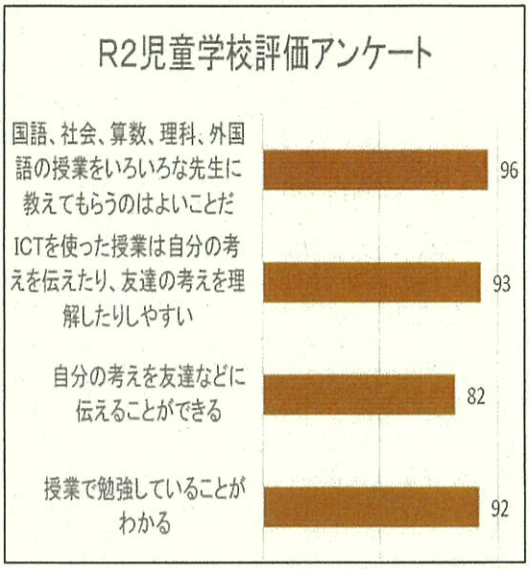
目指す姿

【根拠をもって判断し表現する児童】

子どもが根拠を明確にして自分の意見に自信をもち、対話を通して思考・判断・表現を授業の中で繰り返し、「根拠をもって判断し表現する」姿を目指す。

掛川市立中央小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態



校内研修における成果と課題

【成果】
- 教師の「目標創出型授業」への理解が進むにつれ、児童が主体的に課題に向き合い、他者と対話しながら課題を解決する姿が見られるようになってきた。
- ｉＰａｄについては、高学年を中心に日常的な使用を行うことができるようになってきている。

【今後の課題】
- 教師の「授業観の転換」「子供中心の授業づくり」を進め、目指す児童の姿＊の具現化を目指していく。

  ＊自分で考えをつくる姿・他者と考えながら関わり、自分の考えを少しずつ深める姿・学んだことから次の問いを生む姿
- 児童が必要に応じて、自らＩＣＴを活用し、考えを深めるための「思考ツールの一つ」として使用できるようにしたい。

研修テーマ

学びを深める子の育成
～子供中心の授業づくりを通して～

研修の取組

- 教師が用意した唯一の正解にたどり着くことを目標とする『目標到達型授業（後向き授業）』から脱却し、目標到達に至る対話の過程で新たな問いが生まれ、目標を再設定しながら学び続ける『目標創出型授業（前向き授業）』へと観の転換を目指す。
  そのことにより、本校の子供につけたい資質・能力である「思考力」「問題解決力」「意思決定力」「コミュニケーション力」の育成を目指す。
- 学習者中心の主体的な活動の時間に重点を置く単元構想の工夫（単元デザイン）に取り組む。
- 一人一台ｉＰａｄ環境を生かし、授業におけるＩＣＴ活用の研究を進める。
- 教科チーム（国・社・算・理・英）に所属し、教科チーム研修で授業改善に取り組むことにより、教科の強みや専門性を生かした授業を展開する。→子供の学力向上
- 全体研修や日々の学年研修等で、各教科部の取組を報告し合い、全職員・学年間の共通理解を図る。

特色ある学力向上への取組

高学年教科担任制の導入

・５・６年生では国語、社会、算数、理科、外国語、家庭科、音楽の７教科で教科担任制を導入している。（４年生についても一部導入）
・３学級の授業を担当することで、教材研究や授業準備を効率的に行うことができ、授業改善にもつながっている。
・「学級担任」から「学年担任」への意識の転換で、生徒指導面でも成果を上げている。

教科チーム研修
　国語・算数・社会・理科・外国語の５つの教科チームを設定。高学年は教科担任制で担当する教科チームに所属する。１～４年・級外職員もいずれかのチームに所属する。

６年教科担任制　受け持ち授業一覧

	6の1	6の2	6の3
国語	6の1担任A	6の1担任A	6の1担任A
社会	6の3担任C	6の3担任C	6の3担任C
算数	生徒指導主任D	生徒指導主任D	生徒指導主任D
理科	6の2担任B	6の2担任B	6の2担任B
英語	級外職員E	級外職員E	級外職員E
音楽	6の1担任A	6の1担任A	6の1担任A
図工	6の3担任C	6の2担任B	6の3担任C
家庭	級外職員E	級外職員E	級外職員E
体育	6の3担任C	6の2担任B	6の3担任C

※総合、道徳、学活は学級担任が受け持つ

ＩＣＴを活用した授業づくり

・前面ホワイトボード・可動式プロジェクター、全館無線 LAN 環境の有効活用
・児童の対話の質の向上をねらいとした、ICT 活用研修の推進
・デジタル教科書の利用研究
・授業支援ソフトの導入

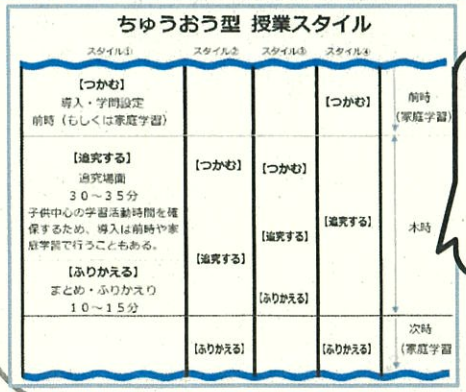
５年社会：教師から配付されたグラフに気づいたことを書き込む様子。

◇iPad 一人一台端末の活用◇

・登校したら、授業準備として各自、机に置く。子供は授業において、調べ学習に使用する等、必要に応じて活用する。
・ドリル学習を個々の能力に合わせて活用する。
・端末持ち帰りによる、学習ドリルと連動した家庭学習を行う。
・活用能力向上のため、休み時間や帰り等の隙間時間を使ってキーボード入力練習を行う。
・クラウドを利用し、個の学習を全体で共有したり、学習記録をデータとして蓄積したりする。

授業とつながる家庭学習

・次の授業の課題について、内容をつかみ、家庭で「調べる」「考えをもつ」「既習の内容の復習」等の学習準備をし、授業ではその知識や技能の活用ができるようにする。
・授業後には「まとめ・ふりかえり」「復習」「新たに生まれた課題に向けた考え作り」等を行い、次の授業へつなげていく。



家庭学習の活用により、授業時間を確保することができ、対話中心の授業設計が可能となる。

コミュニケーショントレーニング

◇ねらい◇
　人間関係を築くコミュニケーションのあり方を身に付けさせると共に対話の素地を養う。よりよい話し方や聴き方を意識化する。（特に聴き方の指導に重点を置く。）

・活動時間は 10 分。毎週水曜日の朝活動で行う。
・一つの話題について、話し手役と聴き手役を交代しながら話したり、聞いたりする。
・コミュニケーション活動の話題例
　ステップ１：好きな食べ物・私の好きな言葉
　ステップ２：もしタイムマシンがあったら？
　ステップ３：苦手な教科を得意にするには？

小中一貫教育カリキュラムの活用

・掛川市として重点的に取り組みたい指導項目を捉え、具体的な活動・発問例を参考に授業改善を図る。
・掛西学園研修会で学園としての特色ある取組を話し合う。

目指す姿

「子供中心の授業」を通して
- **「自分で答えをつくる」姿**
- **「他者と考えながら関わり、自分の考えを少しずつ深める」姿**
- **「学んだことから次の問いを生む」姿**

掛川市立曽我小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○「伝え合う」という手段を使って考えることで、多様な考えに出会い、さらに考えを深めることができるようになってきた。
○児童アンケートで、授業が「わかる子」が91%、「わからない子」が9%であった。(R2年度)
○自分の考えや振り返りを、自分の言葉で書くことができる子が多い。
●問いを自分ごととして、とらえさせたい。
●課題を解決するための方法を選択し、粘り強く学習に取り組ませたい。

研修テーマ

自ら問いをもち、解決しようとする子の育成

研修の取組

研究仮説：ICT 機器の活用場面や伝え合う時間を意識的に設定したり、自分の言葉でまとめを書く（言う）ことができるように手立てをうったりすれば、自ら問いをもち、解決していこうとする子どもが育つだろう。

【内容】
・自ら問いをもったり、解決しようとしたりする姿にせまるために、ICT 機器の活用場面を意識的に設定する。
・タイムマネジメントを意識し、授業のまとめを書く（言う）時間をしっかりと確保する。自分の言葉でまとめが書ける（言える）ように、各学年の実態を考慮しながら実践する。

【方法】
・校内研修のテーマを踏まえながら、個人研修テーマを設定し、実践を積み重ねる。前半は授業実践を、9～10月には研究授業を行い、手立てや成果等を共有し合う。
・ぷらっと授業参観 week を年3回ほど設定し、各学級の実践を見合い、さまざまな手立てを共有する。
・研修教科は自由とし、有効だった手立てを日常的に共有する。

特色ある学力向上への取組

学習3の確実な定着

① 学習用具をそろえる
② 聞き手を見て話す
③ 話し手を見て聞く

全校の共通理解事項として提示し、3つの定着の確認を児童アンケートも併せて行い、達成できる子 90%をめざす。

朝算、朝国、コミュニケーショントレーニングの実施

・木曜と金曜の朝にそれぞれ国語、算数の10分間のドリル学習を行う。
・コミュニケーショントレーニングを通して、話すスキルを身に付ける。

共に高まる学習自慢展、見せ合い授業

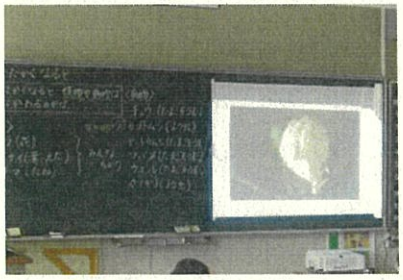
・年2回、9月と2月に廊下にノートやワークシートの展示を行う。(学習自慢展)
・各学年で1つ上の学年の授業を見る機会を設ける。
・授業を見た感想を伝え、自分たちの授業に生かす。

小中一貫教育に向けて

・掛西学園の研修共通テーマである「聞く・話す」の徹底に向けて、週に1回、話すコミュニケーショントレーニングを行う。
・6年生の中学進学に向けて、子どもたちが授業や生活について、知る機会を与える。

一人一台端末の活用

・全学級にプロジェクターとスクリーンを常設。
・児童の iPad と同じ画面を提示したり、大きく映したりすることで視覚支援を促す。
・積極的な iPad の活用を図り、さまざまな使い方を探る。
・e ライブラリの活用を家庭にもお便り等で知らせる。



目指す姿

自ら問いをもち、解決しようとする子

・子どもたちが学習問題を自分ごととして捉える姿。
・問題解決に向けて、さまざまなツールを選択し、粘り強く取り組む姿。
・自分の考えを、友達と伝え合う姿。(図やiPad等を用いながら)
・“できた・わかった”を実感し、次の問いや課題をもつ姿。

掛川市立桜木小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○出された問題や取り組むべき活動に対して真面目に取り組むことができる。
○「どういうことだろう？」と疑問を感じられたり、「もしかしたら○○かもしれない！」と見通しをもてたりするとき、学習への主体性が高まる。
◆自分の考えを友達と伝え合う中で、互いの考えが深化・拡充していくような学びの力を伸ばしていきたい。
◆その時間に学習したことの理解だけでなく、新たな視点で次の学びをつなげる力を育てていきたい。

研修テーマ

どの子も学び続ける授業の創造

研修の取組

研究の柱①　　子どもたちが進んで追究する展開

子どもたちが進んで追究する展開を工夫することで、「自分ごと」として主体的に学んでいく子が育つだろう。「自分ごとの学びの姿」を子どもたちの姿で想像し、具体的な手立てを仕掛けていきたい。また、新しい時代を生きていく子どもたちの学びの可能性を広げるために、ＩＣＴ活用の有効性についても検証していきたい。

研究の柱②　　子どもたちの学びを深める発問

追究場面での発問を工夫することで、子どもたちの思考の流れで付けたい力に収束させ、付けたい力に迫っていくことができるだろう。子どもたちが、自分の学びを振り返ることができれば、資質・能力が育っていくだろう。その時間の学びを振り返るだけでなく、子どもたちにとって新たな課題や疑問が生まれる授業後半の展開も工夫していきたい。

特色ある学力向上への取組

１人１台ｉＰａｄの積極的な活用

社会科や総合的な学習の時間において情報収集のために積極的にインターネットを活用する。また、Google の「Jamboard」というアプリを使用することで、自分の書き込みが友達の iPad にも反映され、協働の学習がより活発になるようにする。キーボード入力に不慣れな子のために、Google「Classroom」の資料を配布する機能を使うことでスムーズに活動に取り組めるようにする。

小中９年間を見通したカリキュラム

○専科教員による外国語の授業
○育みたい価値を明確にした道徳教育
○地域を知り、地域とつながる総合的な学習の時間

しなやかな心を育てるレジリエンス

○桜が丘学園共通の「健康の日」にレジリエンス体験
○行事を通して、友達のよさを

学校と家庭とのつながりを意識した家庭学習

学校		家庭
各教科の学習の基礎・基本の定着（音読・漢字・計算）		
知識・技能の習得	→	復習による確実な定着
意見交流を核にした授業		
考えの深化・拡充	←	自分の考えの形成
知識を増やし、心を耕す読書活動		
朝読書・おすすめの本の紹介	↔	毎日１０分の家読（うちどく）の推奨

目指す姿

◎「自分ごと」として学びを捉え、学び続けていく子

・自らのもち得ている力を生かして自ら考えることができる子

掛川市立和田岡小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○単元を見通し、ＩＣＴや実物、絵などを使って、導入の工夫をすることで、短時間で児童の関心を高め、学習問題を設定することが出来た。
○導入をルーティーンにしたり、困り感を出させるような発問をしたりすることで、より学習意欲が高まった。
▲導入から先の思考が進まない。基礎的知識・技能や考える材料が不足している。

研修テーマ

主体的に学ぶ児童の育成
～ＩＣＴを活用した対話の設定を通して～

研修の取組

研究仮説
　目的を明確にして、ＩＣＴを活用した対話の時間を設定し、振り返りの充実を図ることで、児童の主体的な学びにつながるだろう。

研究内容
「ＩＣＴを活用した対話の設定」
①目的を明確にしたＩＣＴの活用。
　→何のために、どのように活用し、児童にどうなってほしいのかを明確にして授業に臨む。（かけがわ型スキルの育成とつながる）
②振り返りを通して、児童の学びの深まりを確かめる。
　→ＩＣＴを活用した対話（友達や、教材、自分との対話）を通して、何をどのように学んだのか、振り返りとして文字で表現し、理解へつなげたい。

特色ある学力向上への取組

自分の考えをつくるための基礎的な知識・技能の確実な定着

（１）個に応じた指導～わくわく算数タイム～（毎週火曜日、朝活動にて）

・下学年の復習をし、基礎学力の土台作りをするために行う。１日３問程度行い、担任は理解不十分な児童の支援につき、その週内にできるよう個別支援を行う。

（２）たしかめテスト

・長期休業前に、学力の定着を確認する。結果に基づき、補充学習を行う。

（３）読書

・朝読書にて必読図書の読破を目指す。毎週本を借り、週末は家で読書を進める。

本音で語る道徳

（１）多面的・多角的思考につながる発問

①道徳コーナーの積み上げ

・板書を毎時間写真に撮り、各教室道徳コーナーに掲示する。
隔月で道徳コーナーを見合う会を行い、自分のクラスの授業に生かす。

②発問の工夫～年２回の発問研修の実施～

（２）保護者・地域と主に育成する道徳性

・参観会・学校運営協議会・学園一貫研での授業公開。

主体的に学ぶ児童の育成と家庭学習

学ぶ意欲を高める自主学習

・高学年では、自主学習に取り組み、取り組み方をフィードバックして、学び方を身につけ、主体的に学ぶ意欲を高める。

一人一台端末の有効的な授業での活用

（１）写真撮影・画像送受信・画像編集

（２）個人記録媒体としての活用

（３）対話場面での活用

かけがわ型小中一貫カリキュラムの活用

（１）単元計画作成時の活用

（２）指導案検討時の活用

目指す姿

本音で友達と関わり、考えを深める子

掛川市立原谷小学校

令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

昨年度の研修の取組「子どもが単元を通して身に付けたことをまとめ、活用する場の設定」
「本時で学んだことを、自分の言葉でまとめ振り返る活動の充実」

○できたことを振り返り考えを整理することができた。
○「活用」の場面を意識したことで子どもたちの目的意識が明確になった。
△振り返りで書けていた内容を、他の場面に活かしていくことができなかった。

研修テーマ

子どもがすすんで学びに向かう力を育む授業

～ 1人1台PCを活かして～

研修の取組

＜研修仮説＞

令和3年度は、1人1台に PC が導入され、新たな学習のツールとして加わる。1人1台 PC を活かした授業を展開することで、子どもたちの考えをすぐに共有したり、教師が汲み取ったりすることで双方向型の授業が展開でき、子どもたちの学習へ向かう意欲を高めることが期待できる。教師が意見や考えを汲み取りやすくなることで、学習状況の把握に繋がり、個に応じた学習の支援となる。令和2年度の研修ですすめた単元構想の中に活用する場面を位置付け、そこで1人1台 PC を活用し協働的な学びを行うことで子どもたちはすすんで学びに向かう力を育んでいけると考える。

＜研修の重点＞

・子どもの学びに向かう意欲を高めるための１人１台 PC 活用方法(一斉学習)
・「基礎・基本を習得する」「授業で自分の考えを整理する」「授業で自分の取り組みを振り返る」等の場面において、個別最適な学びにつなげる１人１台 PC の活用方法(個別学習)
・話し合い(コミュニケーション)活動においての１人１台 PC 活用よる学びを深める方法(協働学習)

上記のような実践を行うことで、子どもたちにどのような表れが見られ、学びに進んで向かう力につながったのかを検証していく。

特色ある学力向上への取組

◆すすんでホームワーク
- 「学年×10分＋10分」以上
- 同じ場所、同じ時間帯に
- 保護者の見届けや丸付け
- eライブラリ
- 漢字学習ノートを使用し、活用する漢字学習を推進

◆自己決定する家庭学習
- 宿題に「選択学習」を設定
- 教科、難易度、問題量を変えた複数のプリントの中から、自分に合った宿題を選択させる

◆一人一台iPadの活用について
- Jamboardを使った学習
- カメラ機能を使った自然観察
- Keynoteを用いたまとめ活動

◆学習習慣の確立
- 聴く体勢（話す人の目を見る）
- 持ち物の約束
- ノート指導
  学習課題を赤、まとめを青で囲む

◆中学校教員による交流授業
- 原野谷中数学科教員とのT.T授業
  （6年生　隔週金曜日）
- 原野谷中英語科教員とのT.T授業
  （6年生　毎週木曜日）
  新かけがわスタンダードの活用
  デジタル教材の活用

中学校教員による外国語活動

目指す姿

すすんで学びに向かう子

できた！わかった！

わかるって、楽しい！！

もっとやってみたい！

◎必要感をもって友達の考えを聞き、目的をもって伝え、話し合い、協力しながら、考えをより深めていく子
◎「分かるようになりたい」という意欲をもち続け、くじけず、学びを続ける子
◎漢字の読み書き、計算力を中心とした基礎学力が定着している子

掛川市立原田小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○根拠をもとに自分の考えを作ったり、話合いをしたりする姿が増えてきた。
○「まず」「次に」「つまり」のようなつなぎ言葉を使って、順序立てて説明する力が付いてきた。
△友達の考えを聞いても、そこから思考を広げていく力がまだ弱く、思考の範囲が狭い。
△自分の考えを作ることができても、それを伝えられない子が多い。人前で話すことに抵抗をもっていたり、失敗を恐れたりする子が多い。

研修テーマ
キャッチワードを使って、思いを伝えられる子
～論理的思考力と発言力をつける指導～

キャッチワードとは…友達の発言の後に出て来る自然な反応を「キャッチワード」と呼ぶ。
「だったら…」「ってことは…」「例えば…」「でも…」「もし…」

研修の取組

「論理的思考力」…根拠をもとに、見通しをもち、筋道立てて、自分の考えを作る力
友達の考えを聞いて、思考を広げていく力（批判的・統合的・発展的に考える力など）
「発言力」……自分の考えを進んで発信する力

(1) キャッチワードの指導　＊論理的思考力を育成するための基盤
・教師は、子どもの発言の中の「キャッチワード」に注目し、「キャッチワード」が出てきたら聞き返したり、他の子どもに広げたりする。
・授業の最後には、ノートに「ふり返り」を書く。

(2) 伝え合う場の設定　＊論理的思考力・発言力の育成
・発言力を伸ばしていくために、意図的に伝え合う場を設定する。
・ペア、グループなど少人数交流を積極的に取り入れる。
・全体で話し合う時もホワイトボードやプロジェクタなどを使って全員の意見を見えるようにしていく。

(3) iPad の活用　＊論理的思考力・発言力の育成
・思考を広げる力、発言力を伸ばしていくために iPad を積極的に活用する。
・夏休みまでは教師も子どもも iPad の操作に慣れることに重点を置く。
・後半は iPad を活用して授業研究を行い、思考を広げる力、発言力を伸ばすために有効な iPad の活用方法を研修する。

特色ある学力向上への取組

基礎・基本の定着

・毎週火曜日の朝活動でドリルタイム（漢字計算・ワード）を行う。
・年４回「とことんテスト」を実施し、基礎学力の定着をねらう。
・静岡県定着度調査・全国学力学習状況調査の分析を行う。

１人１台 iPad の活用

・校内研修で iPad 使い方研修を行い、まず教師が iPad の使用に慣れることができるようにする。
・各学年の授業を見合う週間を設け、活用の仕方を探る。

家庭学習の充実

・参観会や学年便りで、保護者に家庭学習の大切さを伝えていく。
・ｅライブラリを活用した家庭学習を行う。
・家庭学習の時間「学年×１０分＋読書１０分」を意識させ、音読カードなどに毎日学習時間・読書時間を記録させる。

原谷小・原野谷中との連携

・原谷小とキラリ音楽発表会に向けての音楽交流（４年・５年）を行う。
・原谷小と自然教室（５年）を合同で行う。
・原野谷中学校の外国語専科と数学専科の教員が T2 として授業支援する。

語彙力の向上

・国語の授業では国語辞典を傍らに置き、いつでも活用できるようにする。
・ワードプリント（国語の教科書「言葉の宝箱」より）を作成し、ドリルタイムの時間に行う。
・ステージに１回、ワードコンテストを行う。

目指す姿

全員が進んで授業に参加し、
キャッチワードを使って、とことん思いを伝え合う姿

掛川市立西郷小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○仲間を受け入れ、支える優しさがあり、与えられた課題に対しできるようになりたいという思いをもち、一生懸命に取り組むことができる児童が見られた。
◆自分で考え判断し、自己の向上を図る意識が低く、壁に当たったときの問題解決能力に課題のある児童が多い。
◆自分の困難さを相手や周りに言葉で伝える力や、落ち込んでそこから立ち直る力が弱い。

研修テーマ

共によりよく生きようとする子の育成
～子供たちが自ら学び続ける授業づくりを通して～

研修の取組

1 「国語科」「算数科」を窓口教科として行う。

2　学びづくり部や情報推進部と連携して「対話」や「ＩＣＴ活用」を意識した授業づくりをしていく。　※かけがわ型スキル　④コミュニケーション力

3　研究内容
（1）ねらいの明確化（西郷型指導案）
- **単元において育成する資質・能力の三つの柱を明確にする。**
- **単元の評価規準を作成する。**
- **子供の姿を思い描いて、単元構想を作成する。**

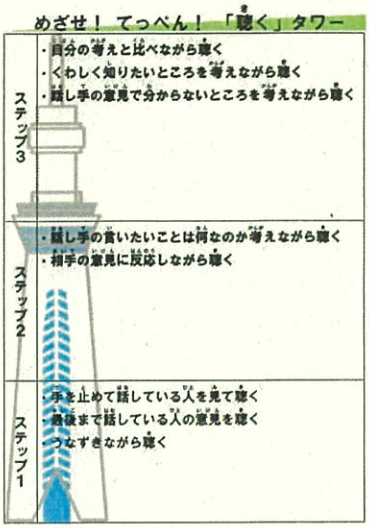
（2）発問の工夫
- **主体的な学びを生み出す中心発問**
  (自分ごととして考えたくなる導入や切り返しの工夫)

（3）考えを深める工夫　※かけがわ型スキル　①思考力　②問題解決力
- **ICT の活用**
- **対話の工夫**

特色ある学力向上への取組

【対話を意識した授業づくり】

- 話す力・聴く力を高める。
  （話す聴くタワーの活用）
- 「対話タイム」毎週火曜日朝活動で実施する。
- 語彙を増やすために、読書や辞書をひく習慣を身に付ける。



【基礎基本の定着】

- 授業の中で反復練習を位置付ける。
- 学習の振り返りを重視する。
- 「チャレンジテスト」を実施する。
- 「学びの６か条」の定着を図る。（筆箱の中身、忘れ物なし、授業準備等）

【一人一台 iPad の活用】

- iPad を身近な場所に常におき、いつでも使えるようにしておく。
- G Suite を活用し、質問したり、ワークシートや資料などの配付物を配ったりする。
- 情報推進部をつくり、業務改善チームと授業改善チームに分け、ICT を活用し、業務や授業の改善を目指す。

【家庭学習の充実】

- 授業の内容と結びつけた家庭学習を出し、予習、復習をする学習習慣を身に付ける。
- 「家庭学習の約束」を配布し、家庭への協力を呼びかける。
- 「いえ読」を呼び掛け、家庭読書の定着を図り、読書好きな子を増やす。

【小中の連携】

- 糞北学園で「糞北の教え５か条」を決め、統一した指導を図る。（あいさつ、思いやり、ルールを守るなど）
- 学園内で年１回の授業公開を行い、情報交換を行う。

目指す姿

ふるさとを愛し　未来にはばたく子

掛川市立倉真小学校
令和３年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○与えられた課題に対して一生懸命に取り組むことができる。
○基礎・基本の力が向上してきている。
○人間関係が良好で、協力して学ぶことができる。
●受け身の姿勢になりがちで、自ら学ぶ力が弱い。
●「解決したい」「力を高めたい」という、向上心に欠ける。

研修テーマ

「～たい」でいっぱいの授業
～主体的な学びを促す仕掛けを通して～

共通実践事項

【授業の具体的な手立て】
・児童の思考の流れを思い描いた授業展開にする。
・学習課題→学習問題→まとめを柱とした授業をする。
・付けたい力を明確にし、指導内容を絞り込む。
　「この授業(単元)で～という力を付けるために、～をする。」
・授業中での目指す姿と単元を終えた時の目指す姿を具体的にもつ。
・「～たい」を引き出す授業の工夫や仕掛けをする。
・基礎基本の力を付けることで、全員が授業に参加できるようにする。

【教師の心構え】
・教師自身が学びを楽しむ。
・一人ひとりの学びの姿に目を向ける。
・「規律はあるが、思考はリラックス」という学習集団作りをする。
・「クラス全員の学力を付ける。」という気持ちをもつ。

【児童観】
・どの子も伸びたいという思いをもっている。
・どの子も学ぶ楽しさを感じたいと思っている。

学力向上への取り組み

授業力向上

- 研修テーマに沿った自分のマイ研修テーマを定める。
- 全担任による研究授業を実施し、事後研修で成果と課題について話し合う。
- 「学習課題･･･白枠。学習問題･･･赤枠。まとめ･･･青枠。」を統一する。
- iPad の効果的な活用についての研修を実施する。

基礎･基本の力

- 朝学習による基礎学力の積み上げを図る。
- 冀北テスト（年４回）を実施し、国語と算数の定着を図る。
- テーマ作文と日記を定期的に実施し、作文力を付ける。
- 学校と家庭が協力し、家庭学習の充実を図る。

冀北学習

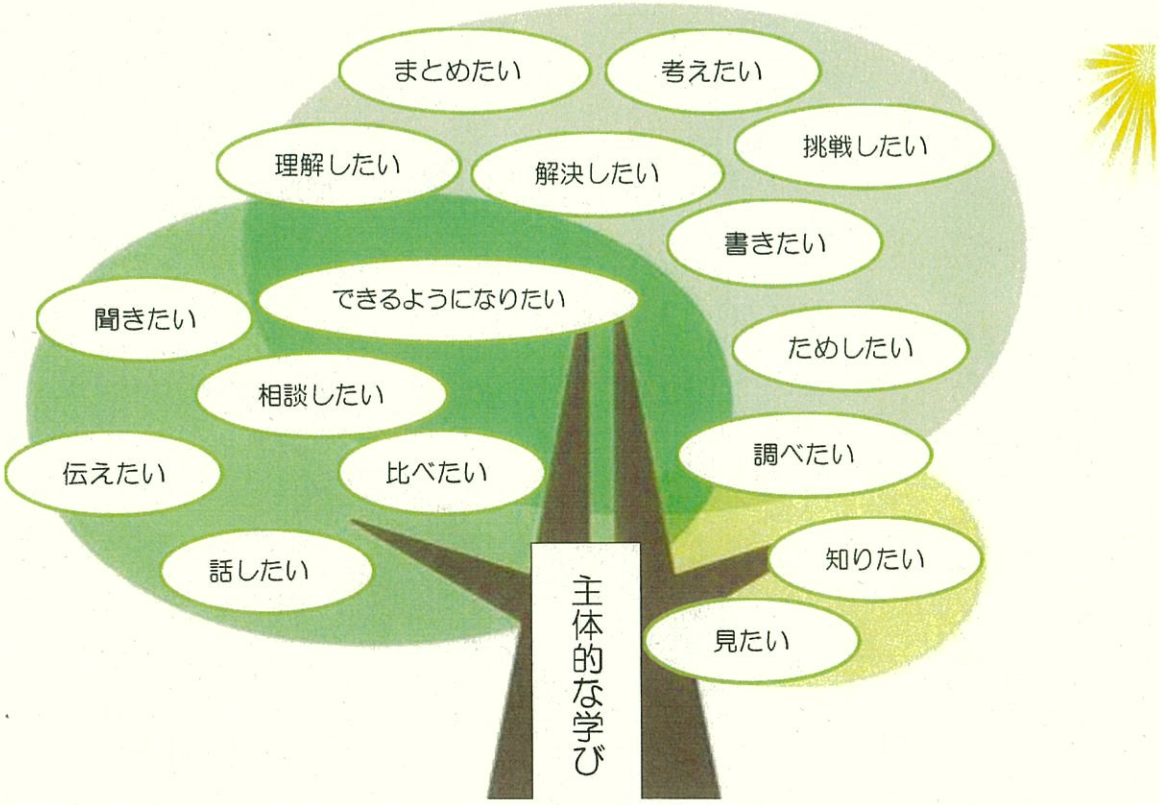
- 倉真地区のよさを再発見するようなテーマを設定する。
- 地域の方や自然を使って、体験を伴った探究活動を実施する。
- 「冀北発表会」で学習の成果を地域に発信する。

読書活動

- 朝読書（週３回１５分間）を実施する。
- 読んだ本を読書ファイルを使って記録する。
- すきま時間の読書を奨励する。
- ノーメディアカードを活用し、家庭での協力を得る。

目指す姿

主体的に学ぶ姿　→　～たいでいっぱいの姿



掛川市立土方小学校

令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○学校評価アンケートでは、「授業が分かる」、「授業が楽しい」と答える児童が共に 90%を超えた。特に、「自分の考えをもつことができた。」の項目は、96%を超える児童ができたと回答した。

○「伝えたい」、「自分と異なる考えを聞きたい」という意欲と目的意識をもち、考えの交流ができた。

▲受け身なところがあり、自分事として学ぶ姿勢が弱い。

▲考えを伝え合うことはできるが、深めるところまでは至らないことがある。

研修テーマ

城東学園小中一貫教育共通テーマ

「対話を通して考えを深める授業」

研修の取組

（1）コミュニケーション力育成を目指す単元デザイン～対話活動の質的向上～
①コミュニケーション段階表に基づき各教科・領域で、段階別の目指す児童の姿をイメージして、単元構想を練る。
②単元の中で、考えが深まる「問い」や「場面」を設定する。
③『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業設計診断（県総合センター発行）を活用し、指導計画を立てる。

（2）考えが深まっている姿の追究
城東学園教科領域部会で実践について話し合う。今年度は iPad を活用した授業実践を持ち寄ることで、効果的な活用方法を研究していく。

（3）学びを深める小集団活動～児童生徒が関わって学んでいく土台作り～
①一人一人が発言の機会をもつ少人数活動・互いの顔を見て話すＴ字隊形
②仲間とかかわり合いながら考える思考ツール「まなボード」、「Jamboard」の活用

（4）授業のユニバーサルデザイン～児童が安心して授業に取り組むことのできる学習環境の創出～
①板書（学習課題：白、学習問題：青、まとめ：赤）
②指導案（４校で統一の指導案・「学びの系統性」を入れる。）

（5）全学年、iPad を活用した授業を公開し、有効な活用方法を検証する。

特色ある学力向上への取組

①一人一台端末の活用について

・児童が「主体的」、「対話的」に授業に取り組めるように活用していく。
・毎週水曜日の夕打ち合わせ時に、情報主任から活用についての提案や簡単な研修を行う。
・校内研修の公開授業では、iPad を活用した授業を行うことで、効果的な活用方法を蓄積していく。挑戦する姿勢を大切にする。

【４月に行った例】

・国語の授業では、Jamboard を活用して初発の感想を分類した。
・学校行事の一年生を迎える会では、５・６年生が自分のタブレットを使って、たてわり班の児童に学校紹介を行った。紹介する写真は、Google ドライブに学年の共有ドライブを作り必要な写真を選んだり、自分で撮影したりした。また、撮った写真を共有するために、AirDrop を使用した。

②目指す授業の姿と家庭教育のつながりについて

目指す授業の姿：人・もの・ことにかかわり、学びをつくり出す子

家庭学習について

・基礎基本となる力をつけるための学習（復習がメイン）音読、漢字、計算等。
・家庭でも主体的に取り組み、授業で協働し活用・表現するための準備学習（予習・反転学習）
⇒単元を見通して、使い分けていく。
・自主学習に取り組む中で、自分に必要な学習を選択できるようにしていく。

③かけがわ型小中一貫カリキュラムの活用について

城東学園一貫教育カリキュラムの内容を精選し、実践を続ける。

外国語活動

新かけがわスタンダードに基づき、小学校外国語活動と外国語科における一貫教育カリキュラムの実践をする。

道徳

地域素材（偉人）を題材にしたかけがわ道徳を計画的に行う。本音で語り合い、自己の生き方についての考えや自覚を深めるようにする。

総合的な学習の時間

身近な地域を題材にすることで、城東地区をより深く知り、城東を愛する心を育てる。

目指す姿

学校教育目標　城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども

重点目標　アクティブ　ポジティブ　クリエイティブ

掛川市立佐東小学校

令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

令和２年度は、城東学園の小中４校で研修主題を『対話を通して考えを深める授業』に向かい、本校では、「道徳科」を窓口とし、以下の４つの視点で研修を行った。

①「授業づくりアイデアシート」を使用した授業構想、②導入の工夫、
③問い返しの引き出しを増やす、④振り返りの工夫

その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

○中心発問を工夫したり、ねらいに向かって深めていけるような問い返しの引き出しを増やしたりすることで、児童が多面的・多角的に考えることができるようになってきた。
○授業の中で意図的な対話を取り入れたことで、児童が対話することに慣れた。
▲自分の意見を友達に伝えることで終わってしまい、深めるところまでいかなかった。
▲考えを広げ深めるための対話スキルが身に付いていない。

研修テーマ

城東学園小中一貫教育共通テーマ
「対話を通して考えを深める授業」

研修の取組

【研究仮説】

何が使え、何を教え、何を考えさせるかを明確にし、児童の実態に合った課題を組んだ単元をデザインすれば、児童が「やりたい」「考えたい」という思いをもち、主体的に考えを深めていけるようになるだろう。

【研究の手立て】

（1）考えを深めるための単元デザイン
　① 何が使え、何を教え、何を考えさえるかを明確にする。
　　・学習指導要領で単元の内容を確認する。
　　・系統表で既習事項や今後の学習事項につういて確認する。
　　・レディネステストで児童の実態を把握する。
　② 子供の実態に合った課題の設定
　　・複数の教科書を見比べてみる。
　　・他教科、領域、行事等との関連で考えてみる。
（2）学習問題につながる問い返し
　③ 問い返しの引き出しを増やす
　④ 対話の持たせ方の工夫（ＩＣＴの活用）

特色ある学力向上への取組

落ち着きのある教室環境づくり

・教室内の掲示コーナーを統一
・学び合いコーナーを設置
・すっきりした前面掲示

まなんでいく姿勢を支える

・学びじまん月間（４月）で学習ルールを守る意識作り
（学習用具・チャイム席・あいさつ）
・定着度調査の分析と個への支援

自分からまなんでいく場

・「まなびたい夢」
自分の夢に向かって、自分で取り組むことを決めて、学ぶ時間。年間８時間確保。

読書指導・読書環境の充実

・朝活動における読書
・家読・親子読書の実施
・読み聞かせボランティアや教師による読み聞かせ
・質の向上を図るための推薦図書の選定
・学校司書の活用

放課後学習・家庭学習

・学びっこタイムにおける基礎の定着
・保護者による見届け
・ｅライブラリーによる自主学習

外国語・外国語活動の充実

・新かけがわスタンダードの Can-Do リストの活用

城東学園小中一貫教育研究

城東学園小中一貫教育研究計画に沿って年間４回の全体研修会を行い、授業実践の成果と課題を共有する。

校内研修では、児童が主体的に考えを深めていく授業にするために、算数科を窓口教科とし、単元デザインと問い返しの工夫を柱に、研修を深める。

校内研修の成果や課題を、城東学園内の小中学校に情報発信するとともに、他校からの情報を全教職員と共有し、実践していく。

目指す姿

学校教育目標	「城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども」
重点目標	「自分から　まなんでいく子」

掛川市立中小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○自分の考えを伝えたり聴いたりして、互いの考えを分かろうとすることができるようになってきた。
○課題解決に向け、対話やコミュニケーションをとろうとすることができるようになってきた。
▲自分の考えを伝えたり、他の人の考えを比べたりすることに自信がもてず、受け身になる子がいる。
▲自分の考えをわかりやすく伝えるためのスキルが育っていない。

研修テーマ

城東学園小中一貫教育共通テーマ
「対話を通して考えを深める授業」

研修の取組

（1）「対話を通して考えを深める」ための手立て
①年代別コミュニケーション段階表に基づき、各成長段階における目指す子どもの姿をイメージして、単元構想を練る。
②単元の中で、考えが深まる『問い』や『場面』を設定する。
③『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業設計診断を活用し、指導計画を立てる。

（2）考えが深まっている姿の追究
城東学園教科領域部会で、「対話を通して考えを深めた授業」の実践を持ち寄り、話し合う。iPad を活用した授業についても話し合う。

（3）学びを深める小集団活動～児童生徒が関わって学んでいく土台づくり～
①３～４人を基本したグループ、互いの顔を見られる隊形（T字型）
②対話時に「まなボード」や iPad の機能を活用する。

（4）授業のユニバーサルデザイン
①板書方法を統一する。（学習課題：白枠、学習問題：青枠、まとめ：赤枠）
②指導案の形式を統一する。（９年間の学びの系統性を入れる。城東学園で統一。）

特色ある学力向上への取組

iPad の活用

校内研修の公開授業において、iPad を活用した学習を行い、効果的な活用方法について探る。

日々の授業の中で iPad を使った活動に取り組み、使い方に慣れる。

中小日記・・・「書くこと」の指導

【ねらい】

①６年間継続して書くことで、基礎学力のもとになる「書く力」を身に付けさせる。

②書いたものを紹介し合うことで、自分や友達のよさやがんばりを感じさせる。

【方法】

・金曜日の朝活動の時間に行う。

・学年ごと、全員に身につけさせる指導事項を設ける。

家庭学習の充実

【ねらい】

自ら学ぼうとする習慣づけを図る。

【方法】

・「学年目標（１０分×学年＋１０分）の学習」を目指す。

・学校での学習内容を伝える「お茶の間学び発表会」を行う。

・iPad を持ち帰り、ｅライブラリの活用も含め、個に応じた学習に取り組ませる。

外国語教育の推進

新かけがわスタンダード Can－Do リストを活用する。

ALT との打ち合わせを確実に行い、外国語科・外国語活動に取り組む。

読書の充実

【ねらい】

読書活動を通して、言語能力を高め、論理的な思考力、コミュニケーション能力等を高める。

【方法】

・朝活動の時間に読書を行う。ボランティアによる読み聞かせも行う。

・職員による読み聞かせや、図書委員によるおすすめ本の紹介を行う。

目指す姿

学校教育目標　城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども

重点目標　自分から学ぶ子　人と学び合う子

掛川市立大坂小学校

令和３年度　我が校のものがたり

【子どもの実態】

○与えられたこと・決められたことには責任をもって行うまじめさがある。
○単元末まで意欲を継続して学習し、共に学び合う姿がたくさんみられるようになってきた。
△自分の意見を伝えるだけにとどまり、交流の中で考えを広げたり深めたりする姿は少ない。
（コロナ禍の中で、交流が制限された部分も大きかった。）
△どの子も自分事として捉えて考え行動しようとする意識が少ない。

主体的に関わり合って学びを深めていく子

学習に楽しさを感じることができる子

学びの土台づくり

1　学びのルールを身につける。
（学びを支える学習用具表）
2　話す力、聴く力を高める。
（話す・聴く山ステップ一覧表）
3　問題解決力の向上
（学習問題→赤枠　まとめ→青枠）
4　家庭学習の習慣をつける。
（ｅライブラリを活用）
5　ICT 機器の使い方を習得する。

研修の取組

1　学習問題の工夫
（つけたい力を明確にした単元構想も含める）
2　話合いの場を設定
（コミュニケーション力の向上）

学び合いの授業づくり

・目指す授業像をつくる
・意図的な学習形態の設定
・振り返り時間の確保

第１ステージ　→　**第２ステージ**　→　**第３ステージ**　→　**第４ステージ**

学びのルールを身につける
○タブレットを使いながら使用方法を知る。
・基本操作、約束を知る。
○目指す授業像を決める。

自分の考えをもつ
○タブレットを授業で使う。
・写真や動画などを使って自分の考えをもつ。
○授業像を個で振り返る。

自分の考えを友達につなげる
○タブレットで自分の考えを友達に伝える場の設定。
・複数の意見や考えを議論する。
○授業像を学級で振り返る。

みんなの考えを繋げて高め合う
○状況に合わせてタブレットを活用する。
・複数の意見や考えを議論して整理する。
○学びの自慢を個で発表する場の設定

○話す山聴く山の活用 →

家庭学習の習慣　**親子読書**　**メディアコントロールウィーク**

「開かれた学校」　家庭・地域の支援と協働で子どもを育てる大浜中学校区学園化の推進

○子育て５か条　○学校公開　○交流連携活動　○学校運営協議会　○地域素材の教材化

特色ある学力向上への取組

心の鐘コーナー

授業での良い表れは、「心の鐘シート」に書いて掲示します。

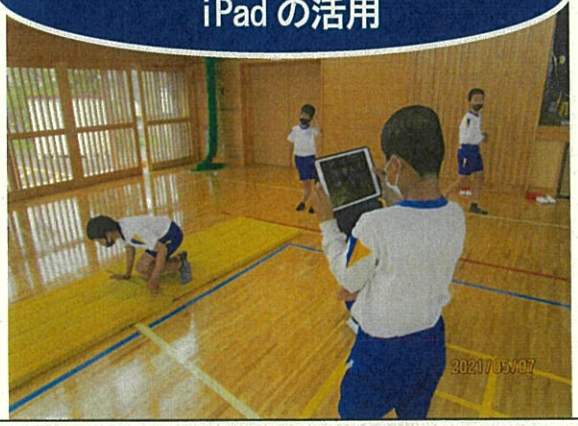
目指す授業の姿と家庭学習のつながり

授業の振り返りや家庭学習で、eライブラリ等を使って復習していきます。

かけがわ型小中一貫カリキュラムの活用

中学校での学習に向けて、高学年の外国語では、書く活動も行っています。

一人一台のiPadの活用



個の学び、グループでの学習に積極的に取り入れています。

目指す姿

学校教育目標	「ならそう　自分の鐘　　ひびかせよう　みんなの鐘」
重点目標	「心の鐘を　ひびかせる子」
研修主題	「主体的に関わり合って　学びを深めていく子」の育成

掛川市立千浜小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

昨年度は研修主題を「主体的に学び合う子」とし、研修を進めてきた。本校の児童は、与えられたことに対しては真面目に取り組むことができる。その反面、課題を自分事として捉え、思考・判断・表現していくことが苦手な傾向にある。そこで、昨年度はこの研修主題のもと、「伝え合う活動を通して学びを深める」ための手立てとして、①学びを深めるための教材研究②対話につながる意欲を引き出す仕掛けの２点を研修の柱とし、授業改善に取り組んだ。その結果、以下のような成果と課題が見えてきた。

○単元や学年間での系統性を意識したことで、学びをつなげることができた。
○単元構想を練ることで、本時で付けたい力を明確にして授業に臨むことができた。
○児童の実態を把握することで、実態に合わせたワークシート、掲示の工夫をすることができた。
▲交流の場が生かしきれていなかった。（交流する目的が明確でない、見取りが不十分）
▲授業の展開を構成しきれていないため、全体共有の場が生かされていなかった。
▲自分事として課題を捉えるためには、学習問題や補助発問のさらなる工夫が必要である。
▲教師が仕掛けたことが、「対話につながる意欲を引き出す」ことにつながらなかった。

研修テーマ

主体的に学び合う子
～ICT の効果的な活用を通して～

研修の取組

1．ICT の効果的な活用方法

一斉指導・グループ活動・個人活動など様々な場面で、どのような活用方法があるのかを考える。

※児童用 iPad は必ず活用する。

※「主体的に学び合う子」の姿にするための活用を考える。

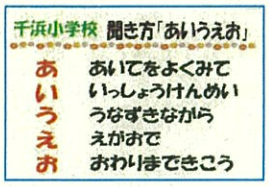
2．意欲的に対話し、自分の考えを広げ深めることにつながる発問

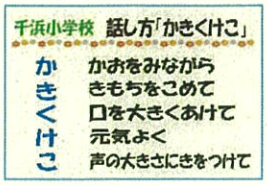
必要感のある学習問題、交流の場面での補助発問を工夫する。

※対話とは、児童同士の対話だけでなく、教師との対話や先哲の考え方を手がかりに考えること。

特色ある学力向上への取組

【学びの土台づくり】
・聞き方「あいうえお」
　話し方「かきくけこ」の定着





・朝の会でスピーチ練習
・朝のドリルタイム（毎週金曜日）
　iPad の活用（e ライブラリ等）

【ユニバーサルデザインを意識した授業】
・１時間の授業の流れが見通せる
　ミニホワイトボードの活用
・中学校区で統一した板書
（学習問題は赤枠、まとめは青枠）

【家庭との連携】
・家庭学習の手引きの配布
・週末読書、親子読書の推進
・家庭学習時間の意識化
・ｅライブラリの推奨

【外国語教育】
・新かけがわスタンダードの活用
・ＡＬＴとの連携

【読書指導の充実】
・朝読書（週３日）
・読み聞かせボランティアや教師による読み聞かせ（毎週水曜日）
・学年に応じた必読書の設定
・毎日の家庭での読書の推進
・学校図書館を活用した授業の推進
・図書便りの発行

【教室環境の整備】
・学習コーナー、道徳コーナーの設置
・すっきりした前面掲示

目指す姿

「主体的に学び合う子」
⇩
自分事として課題を捉えて考えを作り出し、
伝え合う活動を通して学びを深めることができる子

掛川市立横須賀小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○ペアやグループ活動において、友達に自分の考えや思いを積極的に伝えることができた。
○話をしている相手に対しての聞く態度が少しずつ良くなってきた。
○形式的な反応をすることができるようになってきた。
▲全体の場において、自身を持って自分の考えを語ることができない。
▲友達や教師の話の内容を理解しながら聞くことができない。

研修テーマ

話し合い活動を通して「できた」「わかった」を共有する授業
～学習課題と学習問題の工夫～

研究仮説

子どもたちが夢中になって考えたり、活動したりするための学習課題の提示や学習問題を設定することで、話し合い活動が活発化し、子どもひとりひとりの学びが深まり、子ども同士で「できた」「わかった」を共有することができるのではないか。

研修の取り組み（研究内容）

子どもたちが夢中になって考えたり、活動したりするための学習課題の提示の工夫と学習問題の設定の仕方

横須賀小の学習課題と学習問題とは・・・

(1)学習課題
Ⅰ　子どもたちが「知りたい！」「考えたい！」と夢中になるもの
Ⅱ　子どもたちが各教科の見方・考え方をはたらかせるためのきっかけになるもの
(2)学習問題
Ⅰ　本時で学ばせる内容に直結したもの
Ⅱ　子どもが抱いている問題を設定する

特色ある学力向上への取り組み

◇職員・子どもの統一事項◇

☆学び合いの手引き
☆授業スタイル１０か条
☆板書例
☆聞く話すの段階表

◇ICT 機器の活用◇

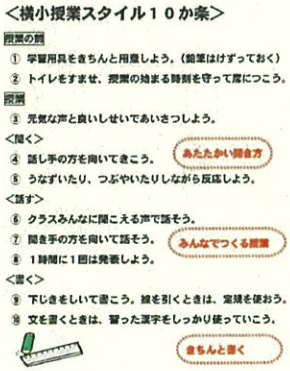
☆ICT を効果的に活用した授業
☆調べる、まとめる、伝えることでの活用
☆プログラミング教材の積極的な活用

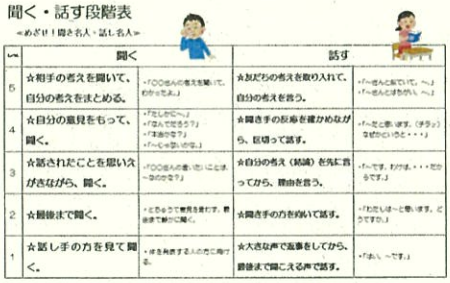
◇読書指導◇

☆朝活動での開き読み、読書
　・図書ボランティアによる開き読み
　・読書カードの活用
☆学校司書の活用
　・読書の時間や授業での本等の紹介

◇家庭学習の習慣化◇

☆学年ごとの家庭学習時間の目安の提示
☆E ライブラリの活用
　・ホームページからの簡単アクセス
☆学年 PTA との連携

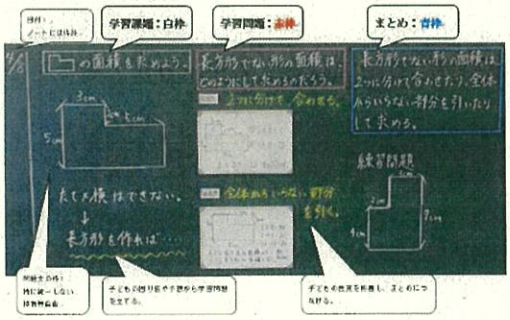




聞く・話す段階表

＝めざせ！聞き名人・話し名人＝

Lv.	聞く		話す	
5	☆相手の考えを聞いて、自分の考えをまとめる。	・「○○さんの考えを聞いて、わかったよ。」	☆友だちの考えを取り入れて、自分の考えを言う。	・「○○さんと同じで、～よ」 ・「○○さんとぼくは、～よ」
4	☆自分の意見をもって、聞く。	・「なるほどね～」 ・「なんでだろう？」 ・「本当かな？」 ・「へーそう思いたのか。」	☆聞き手の反応を確かめながら、区切って話す。	・「～だと思います。（チラッ）なぜかというと・・・」
3	☆話されたことを思い出がきながら、聞く。	・「○○さんの言いたいことは～なのかな？」	☆自分の考え（結論）を先に言ってから、理由を言う。	・「～です。わけは・・・だからです。」
2	☆最後まで聞く。	・とちゅうで発言を遮ぎり、最後まで静かに聞く。	☆聞き手の方を向いて話す。	・「わたしは～と思います。どうですか。」
1	☆話し手の方を見て聞く。	・ほを発表する人の方に向ける。	☆大きな声で返事をしてから、最後まで聞こえる声で話す。	・「はい、～です。」



板書例

目指す姿

(1)友だちの考えや思いを理解しながら聞く子
(2)自分の考えや思いを積極的に友だちへ伝える子
(3)友だちが「伝えたい！」と思えるような自然で温かい反応をする子

☆知識・技能
☆思考力・判断力・表現力等
☆学びに向かう力・人間性等

学力・関わり合う力の定着

掛川市立大渕小学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

令和２年度
　研修テーマ「自ら考え　進んで　自分の言葉で伝え合う子」を育てる授業

成果
・単元構想を十分練り、発問を吟味したことで、子どもたちの中に「みんなで授業をする」という主体的に学ぶ雰囲気が生まれた。
・短時間で課題を共有できるように工夫したり、一人学びの手立てを充実させたりしたことで、子どもが学習の見通しをもち、自分の力で考えを作ることができるようになってきた。
・根拠や理由を明確にしたり、授業のねらいに迫ったりするための切り返しの発問を準備し、視点をもたせた交流を行うことで、子どもの追求意欲が続くようになってきた。

課題
・学習問題を解決させるための深い学び合いまで至らない。
・自分の言葉で友達に分かりやすく伝えられる子どもが多くない。
　※コミュニケーション・対話のための語彙力、発信力を伸ばす。
　※誰とでも関わって学ぼうとする探究心、学級風土を高める。

令和３年度研修テーマ

「根拠・理由を明確にして　進んで自分の言葉で伝え合う子」を育てる授業

研修の取組

（１）主体的な学びを生み出す単元構想
　ア　単元でつけたい力の明確化
　イ　子どもの思考の流れに沿った単元構想の作成
　ウ　発達段階に応じた「つけたい力」の明確化
　　（6年間の系統的指導、横断的な学習）
（２）追求を促す手立て（仕掛け）の工夫
　ア　学びを深める発問（深化・統合・発展）
　イ　効果的な交流（タイミング・視点・形態）

コミュニケーション力・問題解決力の育成

◎新学習指導要領全面実施。
◎教師の指導力向上を図る。

【窓口教科】　国語科
【中心授業研】低・中・高
【特別支援学級授業研】
【講師を招いた研修】
　常葉大学大学院
　中村　孝一　研究科長

特色ある学力向上への取組

語彙を豊かにする読書

読書・読み聞かせ（月・火・木・金）

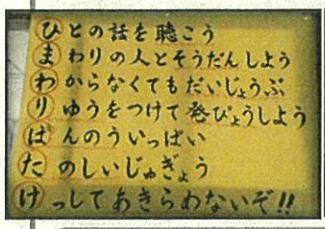
・自分の目標を立てて読書をする。

・図書館デー、大渕小の30冊の活用。

めざす授業像の共有

自分を知り、学級を知り、学級で学び合う姿を話し合い、学級の目標と自分の目標を立てる。掲示して定期的に振り返ることで成長を確かめていく。

また、段階を追いながら分かりやすい話し方や心で聴くことを指導していく。



はなしかためいじん

＊うなずきながら、
さいごまで　きこう！

□はい、～です。
□ぼく・わたしは、～と思います。
わけは、～だからです。
□ことまで　わかりました。
□○○さんと　にていて、～です。
□○○さんと　ちがって、～です。
□ことまで　いいですか？

はんのうめいじん

＊うなずきながら、
さいごまで　きこう！
＊じぶんから
はんのうしよう。

○わかりました。
○そのかんがえも　いいかも！
○ぼくは　すこしちがいます。
○わからないところがあります。
○もうすこし　くわしく
いってください。

マスターテスト（学期末）

漢字の読み書きと算数全般の理解の確認と定着を図る。

授業を見合う週間（10月下旬～11月上旬）

1学年上の授業を参観したり、1学年下の子どもたちに参観されたりすることを通して、目指す授業像に向かう姿を振り返り、より良い学びをしようとする意識を高める。

家庭学習　（学年×10＋10）分

音読、漢字、計算、読書を基本として取り組み、本読みカードを活用しながら、家庭と連携して指導していく。

高学年は、自主学習に計画的に取り組み、自分から学ぶ姿勢を育てる。

全児童には、eライブラリの活用法を知らせ、自主的な取り組みを奨励していく。

職員の研修の場の確保

毎週金曜日の打ち合わせの時間を活用し、GIGAの時間、UDの時間を設定し、担当者が簡単なスキルやポイントを伝え、ICTの活用やUDの視点に立った授業や環境整備を行えるようにする。

教科担当を中心に、かけがわ型小中一貫カリキュラムの活用を促す。

一人一台iPadの活用

研修の中にもiPadの活用を位置づけ、教師も子どもも積極的に使い、「iPadを使って学ぶ」ようにしていきたい。

目指す姿

重点目標「自分から一歩ふみ出そう　みんなでやりぬこう」の具現化された姿として

自分を知り、挑戦し続ける子

＊自分、学級を知る。
＊苦手なことや新しいことに挑戦する。
＊挑戦し、努力し続け、達成感を味わう。

見つけ、考え、高め合う子

＊時間を守る・学習環境を整える。
＊いつでもどこでも誰にでも挨拶、返事。
＊子どもたちによる創造的な活動

自己向上力の育成

中学校

掛川市立栄川中学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○授業や日々の生活において、様々な活動に真面目に取り組む。
○与えられた課題に対して、積極的に取り組む。
○「学び合い」を意識した授業を、各教科で工夫して実践できる。
▲難しい課題に対して、諦めが早い。
▲話し合い活動が、自分の意見を伝えるだけになりがちである。
▲教え合いは活発にできるため、学びをより深めたい。

研修テーマ

進んでかかわり「学び合う」生徒の育成
～「学び合い」を意図的に取り入れた授業の工夫～

研修の取組

栄川中学校区一貫研の研修テーマ「進んでかかわり学び合う子」を受けて、本年度の研修テーマを「進んでかかわり学び合う生徒の育成」と設定した。

サブテーマとして、栄川中の授業づくりの基盤となる「学び合い」に焦点をあて、意図的に授業の中に組み込んでいくこと、教材研究に重点をおいた研修を推進する。これらは、一貫研で実践している「課題設定の工夫」と「交流の意図や目的の明確化」にもつながる。日々の授業の中で、「主体的・対話的で深い学び」を意識した展開をすることはもちろん、栄中の目指す「自分と他者との意見の交流の時間となる学び合い」を実践する場面を意図的に組み込んでいくことを模索し、授業改善を進める。

また、かけがわ型 GIGA スクール構想を踏まえ、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」の実現に向け、様々な場面において ICT 機器を積極的に活用していく。特に家庭学習においては、一人一台端末を有効活用することで、全生徒一律の学習内容から、生徒一人ひとりの実態や思いに応じた家庭学習への移行を図る。

授業や家庭学習での「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を目指して、ICT を最大限活用した授業改善を推進する。

特色ある学力向上への取組

＜学び方を知り、実践する＞

生徒が自身の課題を把握し、自分で家庭学習ができるようになる姿を目指す。

＜ＧＳＫ（学習相談会）＞

（第１回）４月に実施

目的･･･「家庭学習に取り組む」という習慣をつける

（第２回）５月に実施

目的･･･授業の復習、自分の勉強色を高める

（第３回）２学期に実施

目的･･･今の方法で大丈夫？見直しを図る

＜生活プログラムの実践＞

毎日記入する予定帳の生活プログラムの欄に、帰りの会の時間を使って、家に帰ってからの予定を記入し、できたら○、変更したらその内容を記入して翌日提出する。家庭での時間の使い方を考え、どの時間が学習に適しているかなど各自で判断する。

＜地域の講師による英語活動＞

- 毎週火曜日８：００～８：１５
- 前期３年生、後期２年生

リスニングや単語ゲーム等を通して、スキルアップを図る。英語でのコミュニケーション力を身に付ける。

＜読解力向上学習＞

- 毎週金曜日８：００～８：１０

新聞記事を読み、内容理解を深める問いを数問解く。その後、理解した内容について班員とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝする。文章読解力を高める活動であり、読み取る力、まとめる力、伝える力が育つ。

目指す姿

学校教育目標　　学び合い　やり抜く　栄中生

学習･･･学び合い、粘り強く課題に取り組む生徒

生活･･･仲間を思いやり、自分の役割に責任をもって取り組む生徒

特活･･･本物の「自主性」と「自立的な力」のある生徒

研修･･･学び合いを通じて、他者の意見に耳を傾け、自分の考えを深める

掛川市立東中学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○ 行事や部活動、生徒会活動に精一杯取り組んでいる。
○ 明るいあいさつ、正しい服装・美しい身だしなみが身についており、まじめな態度で授業に取り組んでいる。
○ 全国学力学習状況調査（国語・数学）が引き続き全国平均を上回った。
○ 授業において、みんなが参加できる雰囲気、みんなが聞いてくれるから説明しようという雰囲気がある。
□ もっと「わからないこと」を主体的に追究しようとする態度を育てたい。
□ 教科や領域のつながりを意識し、広い視野に立って考えられる力を育てたい。
□ タブレットを活用し、学力のさらなる定着と家庭学習の習慣化を進めたい。
□ 交通ルールとマナーの向上に、より一層努力をさせたい。

研修テーマ

仲間との学び合いを通して、全員が「わかった」「できた」と感じる授業づくり
～一人一台端末による新たな学びの研究　ICT 活用研究～

研修の取組

すべての教育活動において「学び合い」を基本として取り組んでいます。平成 26 年度から、コの字型座席配置、小集団学習を全学級で実施し、学び合いルールの周知徹底を図ることで、教師と生徒による１人も見捨てない学校、学級、授業づくりに努めてきました。ただし、こうした取組も、授業においては、単元を通して付けたい力が明確になっていなければ、また、付けたい力に迫る適切な手立てが講じられていなければ、効果が得られません。そこで、授業づくりの基本となる「押さえる、仕掛ける、確かめる」という視点を全教員で共通理解し、まとめの時間を十分に確保することも徹底しました。

さらに、令和３年度は掛川市教育研究会の指定研究を受け、一人一台端末による新たな学びの研究を始めました。昨年度に引き続き、「かけがわ型スキル」の１つである「コミュニケーション力」育成のため、受容的に聞くスキルトレーニングを毎週金曜日の朝に全学級で行います。この活動は、隣同士のペアで、１つの話題について話したり聞いたりする活動です。話し手は、聞き手が受容的な姿勢を見せることで、「伝わった」「わかってもらえた」あるいは「認めてもらえた」という実感をもつことができます。ＩＣＴを学び合いを深めるための手段の一つと捉え、使い方を検証しています。

特色ある学力向上への取組

- ○ 仲間と高め合う「学び合い」の授業(学び合いを深化させるＩＣＴの活用)
- ○ 地域から学ぶ総合的な学習の時間「掛川学」
- ○ 個別最適化された学びに向けてのＩＣＴ有効活用
- ○ 家庭学習サポートのためのｅライブラリの活用

仲間と高め合う学び合いの授業

「話しかけやすい」「顔を見て話せる」「気持ちが伝わる」「みんなで協力して授業ができる」等、仲間と力を合わせてつくり上げる授業をめざしています。

総合的な学習の時間「掛川学」

東中の総合的な学習の時間では、「掛川市」をテーマとして、地域や学校を知り、その上で地域や学校に関わる諸問題ついて考え、解決していく地域に根ざした学習「掛川学」を推進しています。

授業改善について専門家（日本大学准教授）の指導を受けて進めます。

校歌

一
東海ひいずる　真白き富士ゲ嶺
山脈めぐりて　地平に到れり
平和と自主こそ　揺がぬ誓いぞ
進めよ　我が友　さかしき道をも
こぞれり　この丘　結束は匂えり

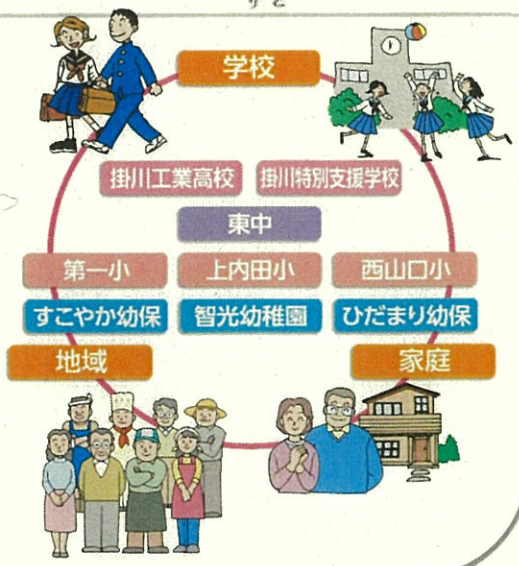
二
葛の繁しげれる　沃野のひろごり
輝く穂の波　あふるる茶の香と
天地の創造　この身にうけたり
磨けよ　我が友　文化は育てむ
こぞれり　この丘　結束は匂えり

三
天主の台下に　春秋流れて
校舎は栄れり　詩りの歴史に
愛なり　敬なり　教えは尊し
修めよ　我が友　栄あれ学び舎
こぞれり　この丘　結束は匂えり

作詞　藤野　桂
作曲　長村宝夫
（昭和二十八年二月制定）

目指す姿

- ○ 校歌が伝える東中の精神「平和と自主こそ揺るがぬ誓いぞ」を実践する生徒。
  平和を脅かすいじめ、差別、偏見、暴力などをなくし、生徒の手で平和な学級、学校、社会を絶対につくると、私たちは宣言します。
- ○ 地域と共にある学校
  中学校学園化構想「掛東学園」を基盤に、地域・家庭・教職員が一体となって生徒一人ひとりを育てます。
- ○ 学び合う力の育成
  グローバル社会を生き抜くために、他と関わりながらよりよく問題を解決していく能力の育成を目指します。



掛川市立西中学校

令和3年度　我が校のものがたり

生徒の実態

○明るく素直、まじめである
○指示されたことはまじめに取り組む
○やり方が分かったことには進んで取り組む
○挨拶・清掃態度は模範的
○行事や部活動への取組は前向き
○小集団で追究の姿が見られる

▲自信をもって自分の考えを発表したり、進んで行動したりすることが不得手
▲苦しいことや厳しい状況に立ち向かうたくましさに欠ける
▲人間関係づくりや対人コミュニケーションに欠ける生徒が見られる

子どもが主役の授業

〈学校教育目標〉未来に向かってチャレンジする生徒

〈重点目標〉伸ばそう 自分らしさ 認めよう 友の良さ

〈研修テーマ〉主体的に問題発見・解決していく力の育成

柱となる取組

問題発見・解決のための手だての工夫

授業実践

- 生徒が思わず考えたくなる 学習問題の設定
- 同教科や教科をまたいだ 小グループ授業公開
- 単元を構想 生徒の姿で学びのつながりを想定

仕事の効率化

- 授業案・板書案・プリントの共有
- 同僚と共に、主体的に学び合う教員 授業力向上研修
- ICT の活用 職員図書の充実

研修テーマに迫る日々の取組

① つぶやきを大切にした授業

【つぶやきを大切にした授業】
・生徒が「分からない」をつぶやける授業。
・生徒同士のつぶやきを繋ぐ授業。
・つぶやきや反応を大切にし、目標達成に繋げる。

② 学習問題を明確にする→赤囲み

・日々の授業から生徒が思わず考えたくなる学習問題を追究する。
・板書では学習問題を赤で囲み、生徒が考えることを明確にする。

③ 問題発見・解決のためのひと工夫

iPad の活用、仲間との対話活動、人・もの・ことの活用、試行錯誤できる環境の整備、学習問題の工夫、思考ツールの活用　など

特色ある学力向上への取組

子どもが主役の授業

① つぶやきを大切にした授業
② 生徒が思わず考えたくなる学習問題
③ 問題発見・解決のための手だての工夫
④ ICT 機器を活用した授業
⑤ IBA を活用した英語力向上
⑥ 技術・家庭科における Pepper を利用したプログラミング学習

１人１台タブレットの活用

① Google Classroom を活用した授業展開
② １人１台を使用した調べ学習
③ ドキュメントを使用したレポート作成
④ Forms によるアンケート集計

家庭学習の充実

① 『花崎ノート(自学ノート)』の有効活用
② e ライブラリを利用した家庭学習
③ １人１台タブレットの活用

掛西学園の連携

掛川学園が目指す子ども像『自分で考え判断する思いやりの心をもった掛西学園の子』

① 学びを支える「聞く・話す」の徹底
「聞く」ときは、話し手の方を向いて最後まで聞くことができる。
「話す」ときは、聞き手の方を向いて、自分の考えや思いを伝えることができる。
② ＧＩＧＡスクール構想、ＩＣＴ機器の有効活用
③ 中１ギャップを踏まえた取り組み
　１．教科担任制（小学校）
　２．乗り入れ授業
　３．交流活動

地域に根ざした学校として

① 地域の人材を生かし、学校へ取り込んだ活動（読み聞かせ、地元芸術家鑑賞会）
② 近隣高校・小学校・幼保園との公開授業（主活動）による指導方法向上の連携

読書環境の充実

① 朝読書の実施
② ボランティアによる読み聞かせ
③ 図書館での朝読書
④ 図書委員会企画の読書啓発活動

目指す姿

子どもが主役として輝く学校

・仲間と共に、主体的に学び合う生徒　〈学習・研修〉
・仲間と共に生徒会活動・学級活動にチャレンジする生徒　〈特別活動〉
・自分たちで適切に判断し、行動・発信できる生徒　〈生活〉

掛川市立桜が丘中学校
令和3年度　我が校のものがたり

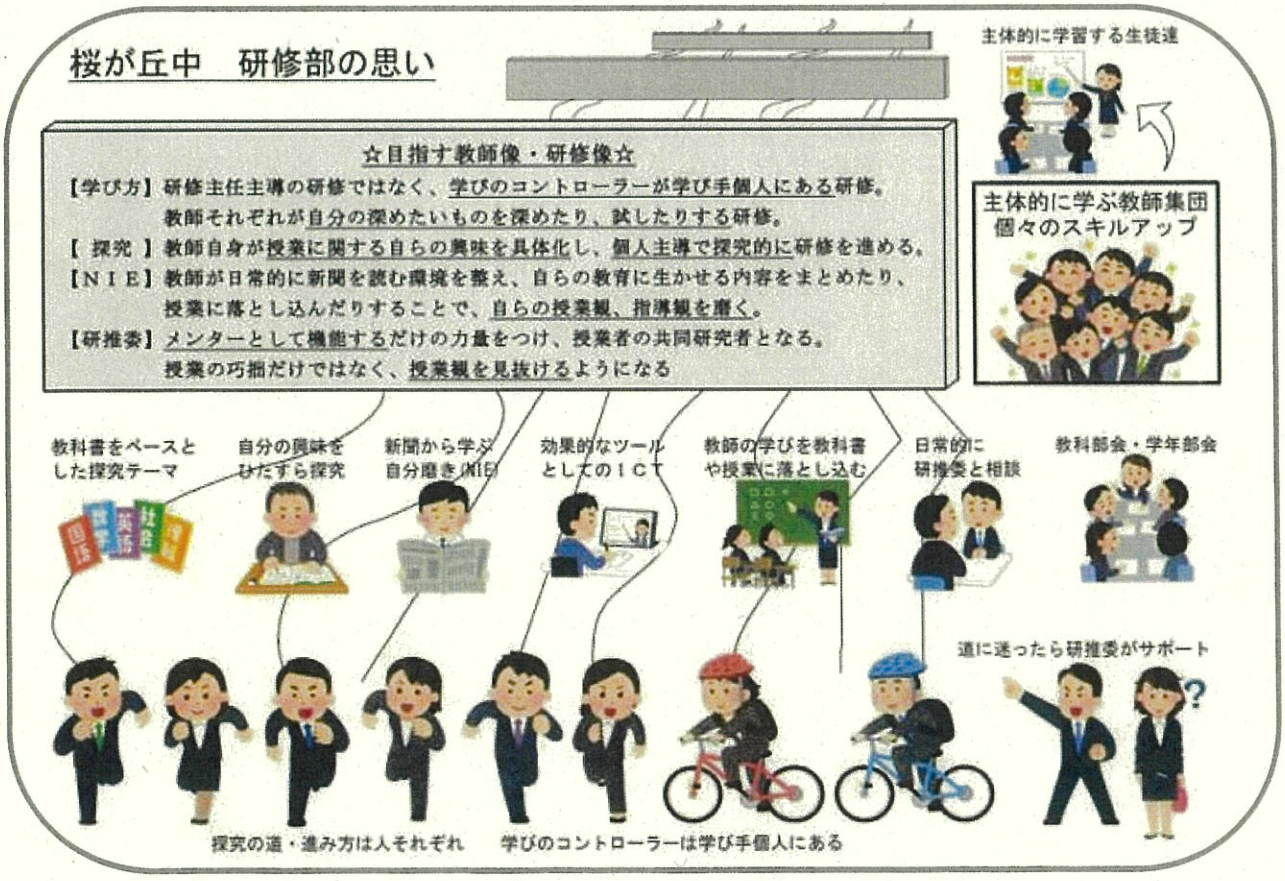
子どもの実態

○真面目な生徒が多く、授業態度は良好である。
○指示されたことに対して素直に取り組む。
○仲間と一緒に話し合ったり、協力したりする活動に意欲的に取り組む。
▲やや粘り強さに欠け、難しい問題や困難な課題に対して諦めてしまうことがある。
▲生み出された次の課題や、上位の目標を目指して、自ら進んで学習に取り組もうとする自主性にやや課題がある。

研修テーマ

NIE を用いた探究的授業改善

研修の取組



特色ある学力向上への取組

○ 魅力ある授業づくり「集団で育む学力」

☆主体的・対話的で深い学び
- 生徒にとって仲間や資料との対話等を通して、自己の考えを広げたり、深めたりすることで、解決につながる適切な難易度の課題を設定する
- 自己の学びを調整できるための手法を身につけさせ、振り返りを確実に行うことで、自分の次の学びを自覚させる
- 表現する手段、手法を学び、相手の考えを受け入れる聴く姿勢を大切にすることで、学び合いができる集団づくりを推進する
- 一人一台 iPad の有効活用の研究と実践を進める　→　積極的に授業や家庭学習で活用
- NIE を各教科、諸活動で推進する

☆指導と評価の一体化
- 新学習指導要領に適合した授業の在り方や評価方法を研究する
- 評価を振り返ることで、課題を見つけ、授業改善を図る

☆道徳教育の充実
- 「やる気」「やさしさ」「たくましさ」を持った子どもの育成
- 「A項目の自主自律」と「人権に関わるB項目」を重点内容とする
- 考え議論する道徳の研究を推進する
- カリキュラムマネジメントを生かした指導方法を推進する

☆校内研修の充実
- 新学習指導要領に準拠した授業、GIGAschool 有効活用、NIE 推進の３本柱の研修を推進する
- 基本的な授業技術の習得を図るための教科部会 OJT を推奨していく

○ 桜が丘学園（中学校区学園化構想）
- 学校と家庭と地域とが思いをひとつにした地域の子育て
- 情報の発信、受信（ｅじゃん掛川、各種便り、参観懇談会、学校関係者評価等）
- 一部一ボランティア
- 学校運営協議会、中学校区子ども育成支援協議会、民政児童委員主任児童委員と語る会
- 部活動ボランティア
- 外部機関、地域人材と連携した教育

○ ＮＩＥ（Newspaper in Education）教育
<u>ＮＩＥ：学校等で新聞を教材として活用すること</u>

ＮＩＥ実践指定校として、教科の授業や朝活動に新聞を導入することで、「情報を正しく読み、選択する力の育成」を目指す

○ 教科指導

<u>基礎基本の定着と学ぶ意欲と追究する力の育成</u>

(1) 授業五原則の徹底

① 開始時刻を守ろう　② きちんとあいさつしよう
③ 進んで表現しよう　④ 人の話を集中して聴こう
⑤ 忘れ物をなくそう

(2) 基礎学力の定着（学力向上プラン）

[最低学習時間の目安] (桜が丘中校区学園化構想)	1年生	2年生	3年生
	90分	120分	150分

- 家庭と学級担任と教科担当とが連携して取り組む基礎学力の定着指導
- ｅライブラリを活用した基礎学力向上のための家庭学習の充実（ｅライブラリアドバンス）

(3) 定期学力定着度調査の実施

目指す姿

大志を抱く（自分から取り組み、自分で考え、判断できる）生徒
共生できる（他者の考えを認め、支え合う）生徒
挑戦する（我慢強く最後までやり遂げ、言動に責任をもてる）生徒

掛川市立原野谷中学校

令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

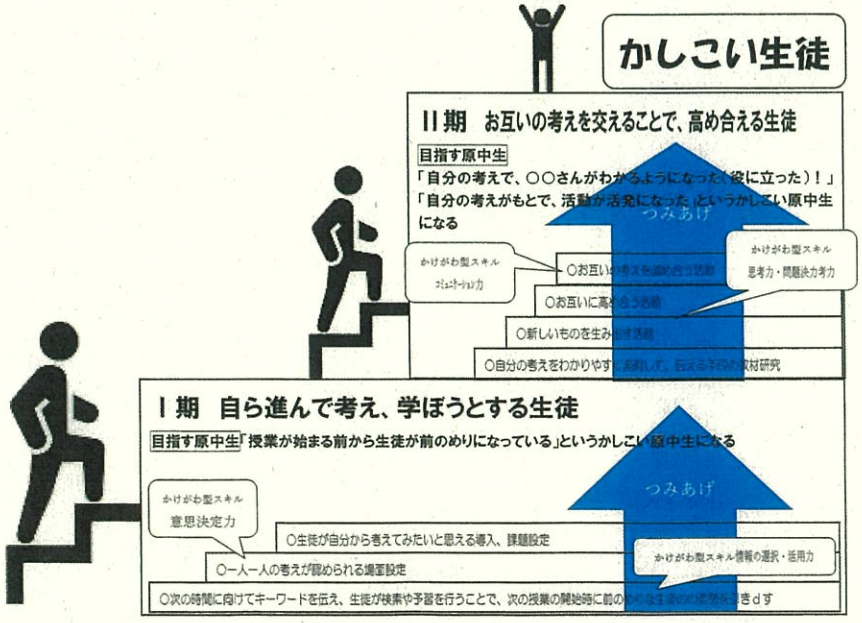
○純朴な心で、落ち着いた生活を送ることができる。
○小規模集団ならではの生徒相互の気心が通じているというよさがあり、諸活動に熱心に取り組むことができる。
○まじめな態度で授業に取り組む。
▲校外に出たときに主体的に行動できる力を伸ばしたい。
▲自ら考え、判断し、行動に移すことが苦手で、生活や学習面において受け身な生徒が多い。

研修テーマ

自ら考え　高め合う　かしこい生徒

Ⅰ期　「自ら進んで考え、学ぼうとする生徒」

研修の取組



特色ある学力向上への取組

小中一貫教育

○原野谷学園の学びのスタンダードの実践

原野谷学園で作成した「学びのスタンダード」を実践する。小中で成長に合わせた学びを児童生徒に継続的に行う。

・話し方、聴き方
・授業の受け方、使う筆記用具
・家庭学習の時間

○中学校教員が６年生の授業に参加

本校英語科教員と数学科教員が小学校６年担任とともに、それぞれ英語と算数の授業を行っている。小学校には専門的な学習の機会を与え、中学校は児童のようすを把握し、スムーズに中学校へ迎えられるようにする。また、かけがわ型小中一貫カリキュラムを軸にして、小中の学習のつながりを持たせる。

中学教員の授業の様子（昨年度）

生徒の学びや活動において iPad を有効活用

○授業での活用

・生徒の知りたい！考えたい気持ちにすぐに答えられる利用
・Jamboard 等を利用した意見の共有

Jamboard を利用した授業風景

○行事での活用

・体育大会の種目説明書を電子化して iPad で団や学級の作戦会議をする。
・さまざまなアンケートを iPad で行う。

○家庭での活用

・家庭学習での利用
・家族で一緒に調べたり、考えたりするツールとしての利用

地域と共に生徒を育てる活動

○数学塾

地域の方と職員が一緒に数学の基礎学力を身に付けたい生徒に個別指導を行う。

○読み聞かせ

月１回地域の方による読み聞かせを行っている。

目指す姿

学校教育目標「夢を抱き　りりしく歩む　原中生」

自ら考え判断するかしこい生徒
心ゆたかでりりしい生徒
ねばり強く取り組むたくましい生徒

掛川市立北中学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

・素直で明るく、友達思いの生徒が多い。
・学習に対する意欲が全般的に高い。
・考え行動し、自己の向上を図ることが苦手である。
・壁を乗り越える問題解決方法を見つけることが苦手である。
・地域のために、中学生として、何か役立ちたいという思いをもっている。

学校教育目標

確かな学力　豊かな心　高いこころざし

研修テーマ

自ら気づき　考えを深め　追究し続ける生徒の育成

研修の取組

過去の２年間の道徳研究では、「考え、議論する道徳」の実現に向け、「生徒が考えたくなる中心発問」「考え、議論する手立て」について研究し、一定の成果を得た。この取組は、新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善にも通じるものである。そこで、これまでの取組を、各教科等、及び教科横断的に広く実践し、本校の研修テーマに該当するかけがわ型スキル「問題解決力」の育成を目指す。

「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶかを重視した授業」

【主体的】
生徒が主体性を引き出す発問の工夫

【対話的活動】
建設的なやりとりを生み出す支援の工夫
（一人一台端末の活用含む）

【深い学び】
問題解決力

特色ある学力向上への取組

【主体的・対話的で深い学びの実現】

「何を学ぶのか」だけでなく、「どのように学ぶか」を重視した授業を実現し、各教科等で育成を目指す資質・能力を生徒が身に付けることで、生涯にわたって能動的に学び続けようとする生徒の姿を目指す。

また、一人一台のｉPadを、学びの振り返りやまとめをするための手段とし、授業での学びをこれからの学びや生活に生かす力を育む。

家庭学習では、学年や生徒本人の実態に合わせ、自身に必要な課題を自らで見つけ、毎日ノート１ページ程度の学習を行う。

１年生は、学習習慣や基礎基本を身に付ける。

２年生は、質と量を確保し、自分の勉強方法を確立する。

３年生は、進路実現に向けて自分に合った勉強で自らを高める。

校内研修

・生徒の主体性を引き出す発問の工夫・・・・・生徒が課題を自分事として捉えているか

・建設的なやりとりを生み出す支援の工夫・・・対話による学びの深まりがあるか

・生徒の「問題解決力」が育成された姿を具現化し、生徒の表れを根拠に教師の手立てを検証していく。

【地　域　連　携】

子どもたちが未来社会を切り開くための資質・能力を社会と共有し、地域と連携を図りながら、身に付けさせていくために「社会に開かれた教育」の実施。冀北学園五か条の実施。

地域人材の活用

【さくら咲く学校】【しばちゃん牧場】【森林組合】【時の寿の森】

【道徳授業「北中型道徳スタイル」】

・「導入」「中心発問の追究」「主体的な価値の自覚を振り返り」の３段階にて構成

・読み物等の資料の活用し、教材研究を行う

・個への振り返り時間の設定

・考え、議論する道徳を展開するための指導のねらいの工夫

・生徒一人一人への良さを伸ばし成長を促すための評価方法を研究。

【教科横断的なカリキュラム】

資質・能力ベースで各教科等の学習内容を教科横断的に見つめ直し来年度のカリキュラム作成をする。

他教科グループで授業の検討・参観をし合い、教科横断的な視点から授業改善に取り組む。

目指す姿

① 挑戦をいとわない生徒　② 新たなレールを自ら切り拓いていける生徒

② 失敗を恐れない生徒　④ 現状を打破していこうとする生徒

⑤ 自ら自分に負荷をかけている生徒　⑥ 自身でふさわしい行いをしていく生徒

地域の主体者としての生徒の育成を目指す

掛川市立城東中学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

平成31年度から、城東学園の小中４校で研修主題を「対話を通して考えを深める授業」に統一し、共通の手立てをもって授業研究を進め、「対話」を中心に研修を行った。その結果、次のような実態が明らかになった。

○小集団活動の形が定着し、生徒は自分の考えをもち、学習班の中で意見を言おうとしていた。

○一人では達成できなかった課題に対して、対話を通して解決していく姿が多く見られた。

▲難しい問いにも意見を進んで発表するなど、主体的に学習へ取り組む生徒をさらに増やしたい。

▲友達の意見を聞くことはできるが、それに対して意見をしたり、自分の考えを高めたりすることが難しかった。

研修テーマ

城東学園小中一貫教育研修テーマ

「対話を通して考えを深める授業」

研修の取組

（１）「対話を通して考えを深める」ための単元構想づくり

①　年代別コミュニケーション段階表に基づき、各成長段階における目指す子どもの姿をイメージして、単元構想を練る。

②　単元の中で、考えが深まる『問い』や『場面』を設定する。

③　単元を通してつけたい資質・能力を授業者・生徒が共有し、見通しをもって学習をすすめられるようにする。

（３）学びを深める小集団活動～児童生徒が関わって学んでいく土台づくり～

①　人数は３～４人　②　隊形はＴ字　③　ホワイトボード（愛称：まなボード）の活用

（４）ICT の活用　iPad を活用してまとめをしたり、表現をしたりする。

（５）授業のユニバーサルデザイン～子どもが安心して授業に取り組むことのできる学習環境の創出～

小中で板書と指導案の形式を統一

特色ある学力向上への取組

学習環境づくり～学習の４原則～

授業における「学習の４原則」として、「タイム着席」「あいさつ」「自分の考えを伝える」「相手を大切に聞く」を設定する。学芸委員会が中心になって呼びかけをし、生徒自らが学習環境を整える努力をする。

一人一台ｉＰａｄの活用

調べ活動や考えをまとめたり、発表したりする活動でiPadを活用し、学習への理解や考えが深まるような活用方法を研修していく。

外国語教育

新かけがわスタンダードに基づき、小学校外国語活動と中学校英語科における一貫教育カリキュラムを実践する。小中学校間のなめらかな接続と適度な段差を設定することを意識し、小学校での学習内容を発展的に生かすようにする。

小中のつながりを意識した授業

城東学園の一貫研修で、小学校の教員と「かけがわ型小中一貫カリキュラム」を参考にして、小学校の学習とのつながりを意識した授業づくりや、「コミュニケーション力」を育成する授業実践を連携して行う。

総合的な学習の時間

一貫教育カリキュラムに基づき、「コミュニケーション力」を意識しながら、課題解決学習を行う。防災学習や身近な地域を題材にことで、城東地区をより深く知り、城東を愛する心を育てる。

家庭学習

「自学ノート」や「ワーク」の他に「eライブラリ家庭学習サービス」を導入し、ICTを活用して、家庭学習への生徒の主体的な取組を奨励する。学級担任は教科担任や保護者と連携を取り合い、多方面から家庭学習をサポートする。

目指す姿

学校教育目標　城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども

重点目標　進んで挑戦する生徒
仲間と共に高めあう生徒

掛川市立大浜中学校
令和3年度　我が校のものがたり

子どもの実態

・仲間の考えや表現に触れることで、思考を広げたり深めたりして、自分の考えを更によいものにしようとする姿勢が見られる。
・付けたい力が付いたことを実感できていない可能性がある。
その授業で付けたい力がついたかどうかを生徒が実感できているかどうか。

研修テーマ

主体的・対話的で深い学びを目指して
～一人一人が ICT を効果的に活用する～

研修の取組

1　付けたい力を付けるための授業デザイン
(1)解決したい課題や問いの設定
(2)深め、広げる学び合いの時間の確保
①学習形態の工夫（小集団の活用）
②考えるための材料
③わからなさを大切にする教師の見取り
(3)付いた力を実感する振り返りの充実

2　ICT の効果的な活用
(1)学びの UD としての活用
(2)深め広げるためのツールとしての活用
・授業の目標に近づくための手段として生徒一人一人が効果的に活用する。
例：資料配付、考えの共有や比較、動画資料、シミュレーション、表現など
・力がついたことを実感するために効果的に活用する。
例：スピーチや演技の動画撮影、学びの蓄積、単元における変化の比較
・個のニーズに合った活用方法を見いだす。（授業内での支援、家庭学習など）

3　中心授業研究の工夫
(1)学習科学の考え方を生かした授業研究会の実施
(2)学習過程可視化法を用いて付けたい力を発揮する姿が現れているかどうかを学びの姿から判断する。

特色ある学力向上への取組

① 外部人材の活用による研修の活性化
・聖心女子大学の益川弘如教授から助言を受け、「深い学び」に焦点を当てた校内研修を推進する。

②データに基づく授業診断
・授業改善によって生徒の学力が向上したかどうかを検証するために、授業評価アンケートや全国学力学習状況調査等を用いて総合的に分析を行う。

③対話を基軸にした授業づくり
・小集団を基本とし、「解決したい課題や問い」「考えるための材料」「対話と思考」「学習の成果」という４つの観点から、授業づくりを行う。
・生徒のわからなさや疑問を引き出し、そこからさらに学びを深める。

④対話を基軸にした学校づくり
・総合的な学習の時間の取組（防災教育やキャリア教育）、特別活動における仲間づくりや自尊感情を高める支援など、すべての教育活動において「対話」「協働」「学びあい」を実践する。

⑤家庭学習におけるＩＣＴの活用
・インターネットによる家庭学習サービス「ｅライブラリ」を使って、生徒が家庭で、復習や予想問題に取り組む。
・iPad を持ち帰り、課題やレポートの作成・提出等に各家庭で取り組む。
・自らの学習データを集積し、自学に活かす。

⑥ＩＢＡおよび新かけがわスタンダードの活用
・中２で実施するＩＢＡにより実態を把握するとともに、小学校の外国語教育との連携を図りながら授業改善に努める。

目指す姿

・授業で付いた力を実感することで「もっと学びたい」「もっとできるようになりたい」「もっとわかるようになりたい」と思う生徒。
・仲間の考えや表現、わからなさや疑問に触れることで、思考を広げたり深めたりし、自分の考えを更によいものにしようとする生徒。

掛川市立大須賀中学校
令和３年度　我が校のものがたり

生徒の実態

・問いに対して素直に驚いたり、不思議に思ったりすることができる。
・小集団活動では、男女問わず対話ができる生徒が多い。
・生徒の地域行事への参加率が大変高く、地域とのつながりが強い。
・学びを深めようとしたり、深く物事を考えようとしたりする習慣の定着が弱い生徒が多い。
・基礎学力や家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多い。

令和２年度の研修の成果と課題

【成果】

おおすか型授業スタイルの確立を目指し、コロナ禍ではあったがシールドを使うなど工夫して小集団活動の時間を確保し、『学び合い』による生徒同士の関わり合いを維持したことにより、生徒が追究したい課題に対して取り組むことができた。

【課題】

GIGA スクール構想によって１人１台タブレットが配付された状況において、今まで以上に情報端末を活用した授業づくりが求められる。

研修テーマ

生徒一人一人の学びを保障する『学び合い』の実現を目指して

研修の取組

☆ジャンプの課題を設定した主体的・対話的で深い学び（全員参加の授業）

☆ICT 活用により充実した学習（１人１台タブレットの活用の充実）

《学びの成立のために》

＊活動的で、協同的で、表現的な学び

＊「学びの成立条件」　＝「真性の学び」＋「聴き合う関係」＋「ジャンプの課題」

・真性の学び　＝「話し合い主義（課題の本質を見失った会話）」を克服した学び
・聴き合う関係　＝　生徒同士だけでなく、教師と生徒も聴き合う。
・「共有の課題（教科書レベル）」＋「ジャンプの課題（教科書以上）」

＊教師の役割は「聴く・つなぐ・返す」

・授業を「プラン」ではなく、「デザイン」していく。
・プラン…授業前に決定。デザイン…授業課程においても授業を再構成。

～特色ある学力向上への取組～

☆おおすか型授業スタイルの確立

生徒が資質・能力を発揮しながら主体的に学ぶことのできる授業づくりを進める。

①ＩＣＴ機器の活用で導入と学びの工夫をする。

・導入に機器を用いることで時間を短縮する。

・意見の共有や交換を行いやすい。（コミュニケーションツールとしての活用）

・考えの変容を見取りやすい。　・情報の選択・活用力の向上を図る。

→　同時に環境整備や活用法の紹介、授業実践などを OJT 研修として扱う。

②小集団活動を設定し、生徒同士の関わり合いを増やす。

③生徒の主体的な学びによって授業が展開されるような単元構成を考える。

④基礎学力向上のための家庭学習の充実を図る（予習、復習、e-ライブラリの活用）。

☆ジャンプの課題設定

「共有の課題（教科書レベル）」＋「ジャンプの課題（教科書以上）」を設定し、教師はファシリテーターとしての役割を担う。

☆朝学習・コミュニケーション活動・ＮＥ活動（Newspaper in Education）

①学習意欲の向上や基礎学力の定着を目指し、年間 25 回の朝学習を行う。

②対人関係スキル（聴く、話す）の基礎技術を身に付けさせるために、レベルごとに異なる会話的活動（１分間の話す・聞く・要約する）を週１回行う。

③年間 25 回、教科担任が選んだ新聞記事を読み感想を書く活動を行う。生徒の読解力の育成と書く力の向上を目指す。

☆学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業（英語）

全学年・全生徒へ英語のデジタル教科書を配布する。授業や家庭学習において、デジタル教科書を活用することで、英語の学習においてどのような課題や効果が得られるかを検証する。

目指す子どもの姿

追究したい問いに対し、主体的に深く学ぶことができる生徒